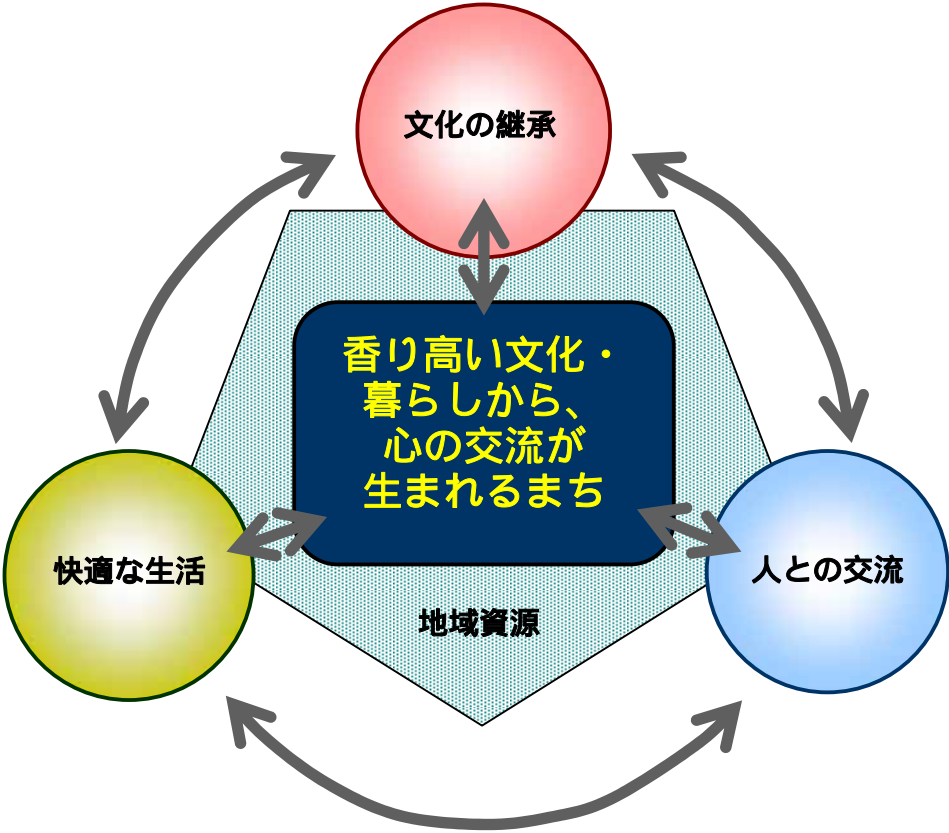


関宿・周辺地域にぎわいづくり基本方針



～ 関宿の街道文化が育むにぎわいゾーン ～

平成19年3月

龜山市

目 次

第1章	はじめに	1
1 - 1	基本方針策定の背景と目的	1
1 - 2	基本方針策定の経過と検討体制	2
1 - 3	用語の定義と解釈	4
第2章	関宿・周辺地域の現状と課題	5
2 - 1	関宿・周辺地域の現況	5
2 - 2	地域住民・団体等の意向	12
2 - 3	地域資源活用の強みと弱み	28
2 - 4	関宿・周辺地域におけるにぎわいづくりの課題	30
第3章	関宿・周辺地域の将来方向	33
3 - 1	にぎわいづくりの基本姿勢	33
3 - 2	地域の将来像と基本目標	35
3 - 3	施策の体系	37
第4章	関宿・周辺地域にぎわいづくりのための基本施策とワーキンググループ会議で提案された具体的事業・取り組み	39
4 - 1	関宿の町並みが育んだ文化と誇りを受け継ぐための施策	39
4 - 2	快適に暮らし続けることのできる環境を確保するための施策	46
4 - 3	人との出会い、ふれあい、語らいを楽しむための施策	52
第5章	関宿・周辺地域にぎわいづくりの推進に向けて	60
5 - 1	協働型の推進体制の構築	60
5 - 2	活動展開方策と各主体の役割	61
5 - 3	関宿温泉の活用について	68

第1章 はじめに

1 - 1 基本方針策定の背景と目的

(1) 基本方針策定の背景

旧東海道の宿場町であった関宿は、昭和 59 年に重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）に選定され、町並みの保存及び修理修景が進められてきました。また、当該地区に暮らす人々の生活の場としても大きく変化することなく守られてきたため、宿場町の姿を今に色濃く残す歴史遺産として年々評価が高まり、訪問客も増加傾向にあります。

一方、関宿周辺には住宅地が整備され、多くの世帯が居住しているとともに、近年、民間企業の大規模生産拠点の立地も相まって、単身者を中心に居住者が増えつつあります。

さらに、合併に際して策定された「新市まちづくり計画」において、関宿・周辺地区は「にぎわいゾーン」として位置づけられており、湧出した温泉の特性や活用方法を検討しています。

以上のような状況を踏まえ、関宿・周辺地域におけるにぎわいづくりに関する基本方針を描き、市民、地域、民間、行政が共有して実現をめざすことが求められています。

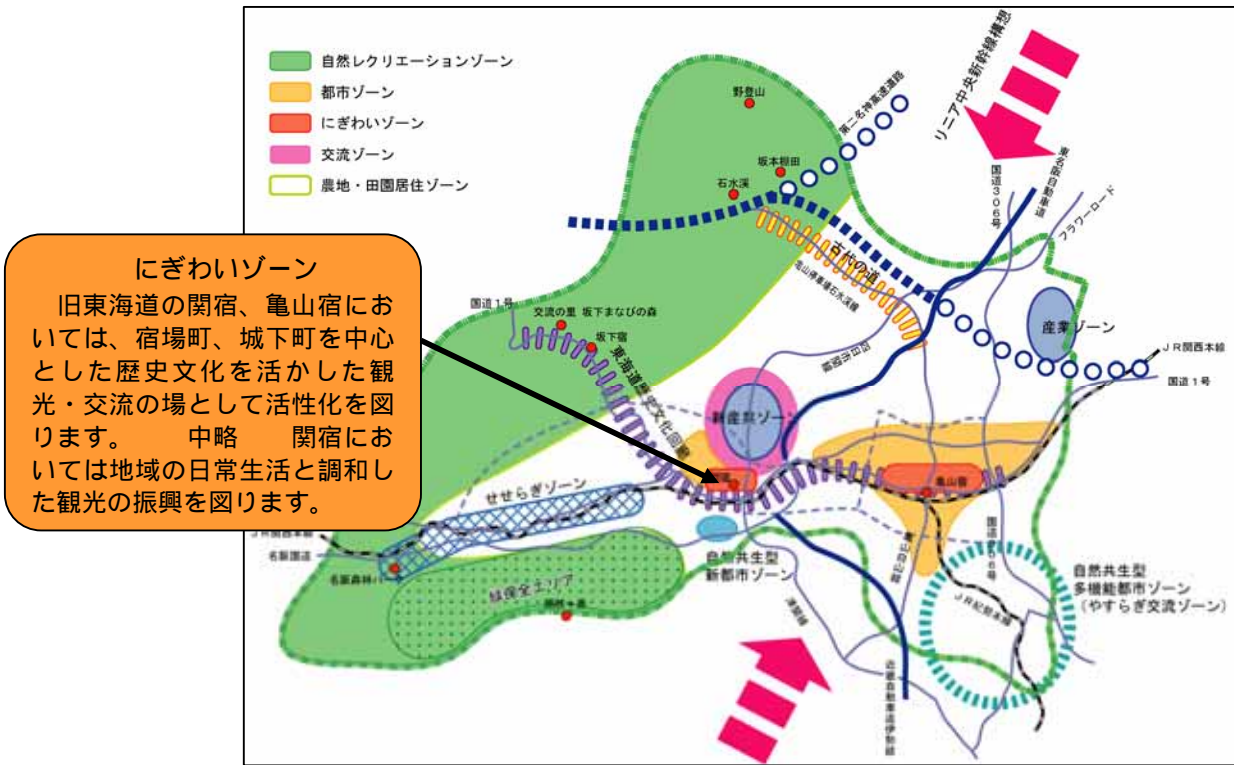


図 1-1 地域整備の方針

資料：新市まちづくり計画（亀山市・関町合併協議会）

(2) 基本方針の目的・期間

関宿・周辺地域に住む地区住民を始め、各種団体、民間事業者、行政が地域の将来像を共有し、それに向けた取り組みを互いに連携・協働しながら進めるため、「関宿・周辺地域にぎわいづくり基本方針（以下、本方針という）」を策定しました。

なお、本方針では、将来像を 20 年程先を実現することとし、具体的な取り組みについては、今後 10 年間に実現を目指すものとします。

1 - 2 基本方針策定の経過と検討体制

本方針の策定に先立ち、平成 17 年度には、亀山市の担当部署から選出された職員で構成されたチームにより、関宿・周辺地域の現状把握や関係する諸団体、学識経験者、地域住民それぞれの意見の収集を行いました。

それらの結果をもとに、平成 18 年度に本方針の策定を進めました。

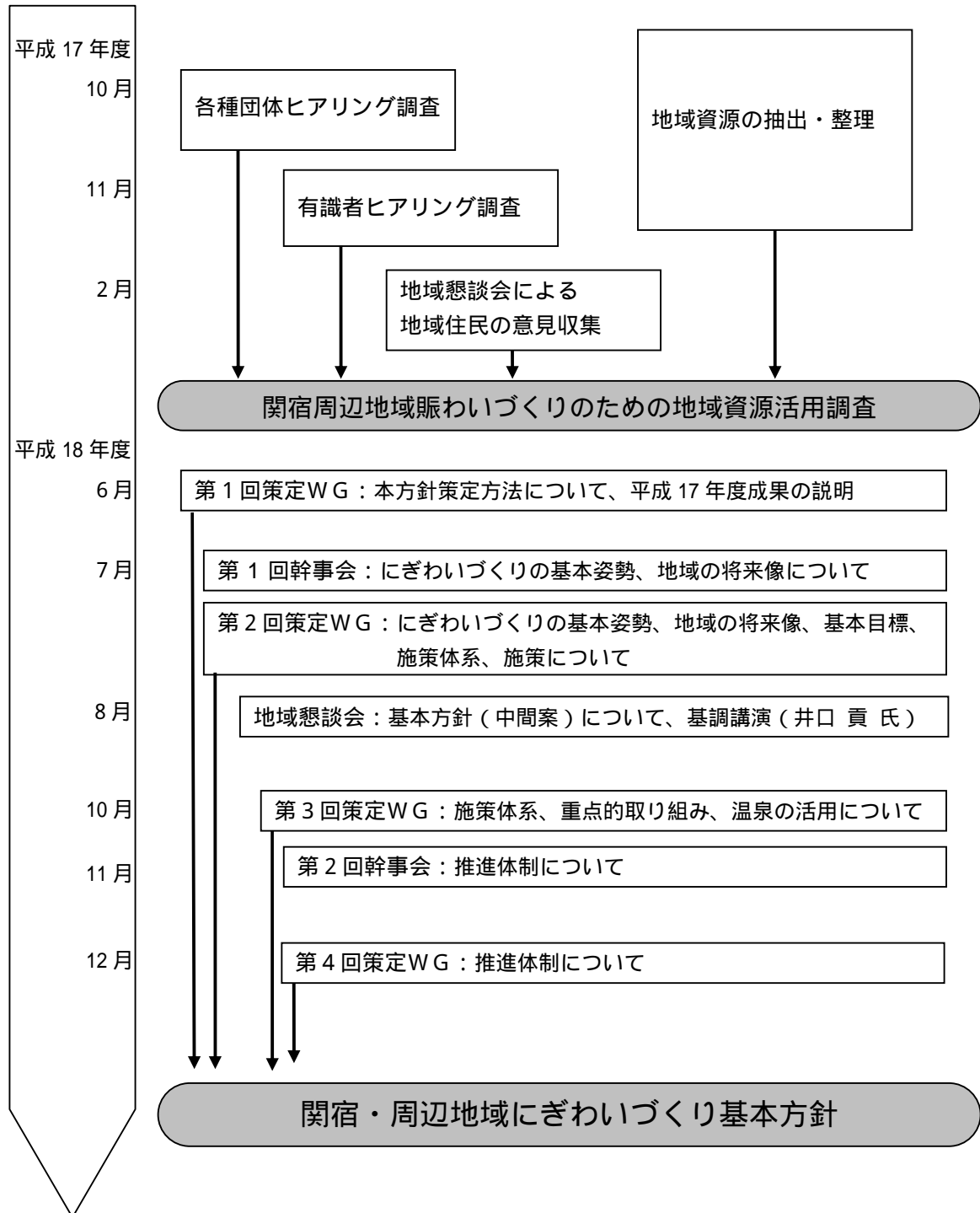


図 1-2 本方針策定の経過

本方針の策定に際しては、下記のメンバーによって構成される「関宿・周辺地域賑わいづくり基本方針策定調査ワーキンググループ（以下、策定WGという）」及び、策定WGメンバーから選出された幹事による幹事会により検討が進められました。

策定WGには学識経験者、各種団体、地域組織、行政を含めた様々な主体が参画し、必要に応じてワークショップ形式での意見交換をするなど、活発な議論がなされました。

	所属	氏名	備考
1	京都橘大学文化政策部教授	井口 貢	座長（幹事）
2	亀山市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	岡田集平	
3	亀山市文化財保護審議会委員、関宿保存会事務局長	伊藤龍生	幹事
4	亀山市観光協会会長、亀山商工会議所副会頭	川森英生	副座長（幹事）
5	亀山市観光協会事務局長	黒田力男	幹事
6	亀山商工会議所観光サービス部会長	若菜照生	
7	関名店会会長	今西政和	
8	関宿保存会会長	服部泰彦	幹事
9	関宿案内ボランティアの会会長	岩間俊彦	幹事
10	関宿「関の山車」保存会副会長	浦野明博	
11	自治会第18支部長（新所）	小坂 弘	
12	自治会第19支部長（中町）	三谷伸吉	
13	自治会第20支部長（木崎町）	黒宮重郎	
14	関新所地区コミュニティ会長	澤内博範	
15	関中央地区コミュニティ会長	竹田邦彦	幹事
16	木崎地区コミュニティ会長	長谷川一男	
17	亀山市婦人連合会関地区会長	蔵城豊子	
18	宿場の賑わい復活一座	中浦豊子	
19	地域の活性化を考える会会長	寺山 昭	
20	市民代表	桜井俊哉	
21	市民代表	太田宏生	
22	市民代表	若林幸代	
23	市民代表	岩田温子	
24	市民代表	松井幸紀	
25	市民代表	高畑勝也	
26	亀山商工会議所経営指導員	奥田すなお	
27	亀山市産業建設部長	里 宏幸	
28	亀山市企画政策部企画経営室長	古川鉄也	
29	亀山市市民部市民サービス室長	木崎辰雄	
30	亀山市産業建設部産業・観光振興室長	松井元郎	幹事
31	亀山市産業建設部まちづくり推進室長	稲垣勝也	
32	亀山市教育委員会まちなみ・文化財室長	嶋村明彦	幹事

表 1-1 策定WGメンバー（敬称略）

1 - 3 用語の定義と解釈

本方針では、定義もしくは解釈が必要となる用語について下記のとおり定めます。

用語	本調査での定義・解釈
関宿・周辺地域	本調査では、関宿・周辺地域を重要伝統的建造物保存地区及びその周辺地域として解釈します。 具体的には、関町新所、関町中町、関町木崎の3地区とするが、場合により3地区に隣接する若干のエリアも含むものとします（図 1-3 参照）。
賑わい（にぎわい）	本調査における 賑わい（にぎわい）は、訪問客の増加とそれがもたらす経済活動の活発化にとどまらず、関宿・周辺地域に住む地域住民の日常生活の活気や内発的な地域活動の盛り上がりによる活発な活動などの事象も含めた概念として用います。

表 1-2 用語の定義・解釈

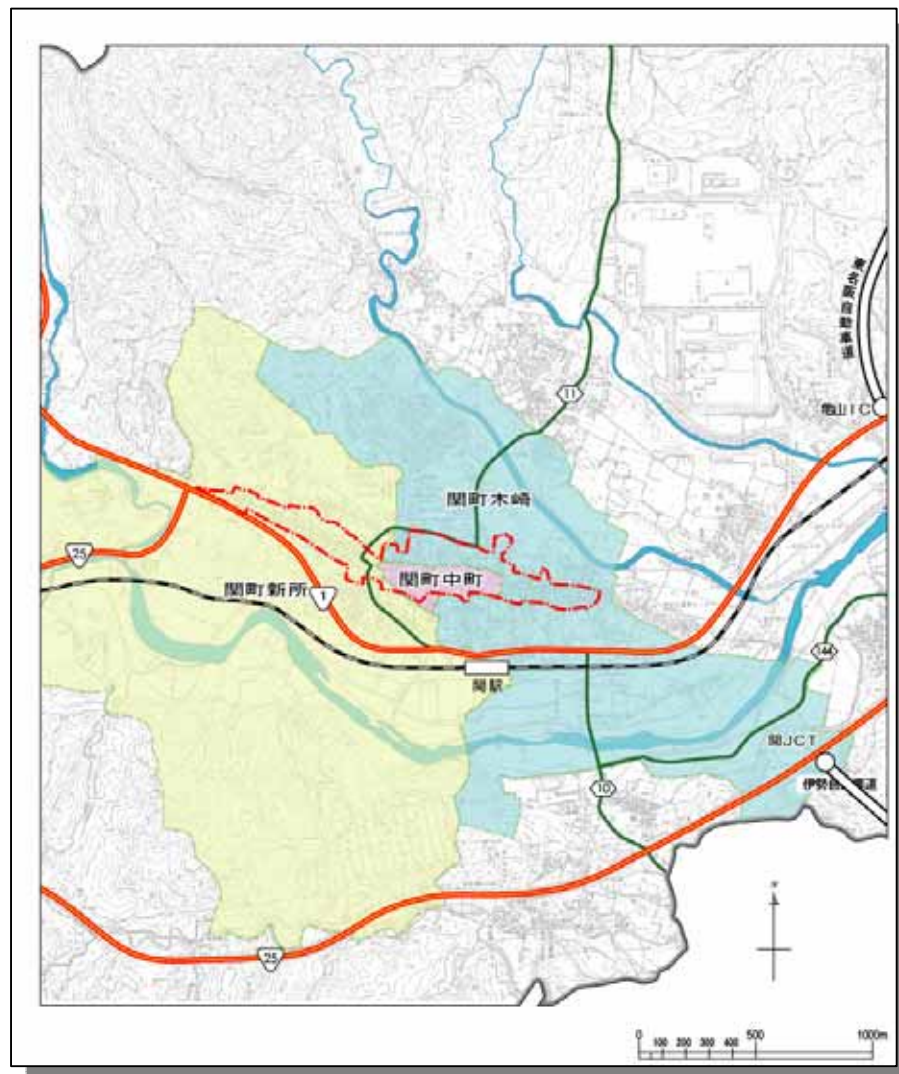


図 1-3 関宿・周辺地域

第2章 関宿・周辺地域の現状と課題

2-1 関宿・周辺地域の現況

(1) 地域資源の現状

亀山市には、景勝地、史跡、文化財、宿泊施設・キャンプ場などの数多くの地域資源があります。その中でも、関宿は東海道五十三次の宿場町で、また、その面影を今に色濃く残しているということで歴史的・文化的価値を高く評価されています。

また、周辺地域には、風光明媚な自然景観や古くからある神社・仏閣が受け継がれており、訪問者の目を楽しませています。

種類	資源名	
景勝地	錫杖ヶ岳 加太不動滝 東海自然歩道 鈴鹿峠（歴史の道100選） 鈴鹿山の鏡岩 石水溪（白糸の滝、三ツ淵他） 仙ヶ岳	坂本棚田（日本の棚田100選） 野登山・ブナ林 太岡寺躰（桜） 亀山城跡（桜） 亀山公園菖蒲園 太巖寺（藤） 野登地区ミツマタ （石山観音・津市）
史跡	日本武尊能褒野御墓 片山神社 坂下宿 岩屋観音 平盛国像 鹿伏兎城跡と神福寺 峯城跡 亀山宿 亀山城多聞櫓 加藤家長屋門及び土蔵	石上寺 慈恩寺・木造阿弥陀如来立像 遍照寺 石井兄弟敵討碑 野村一里塚 宗英寺・イチョウ 鶏足山野登寺 東海道 大和街道 巡見道
無形文化財 ・まつり	かんこ踊り 獅子舞 鈴鹿馬子唄 傘鉾	心形刀流武芸形 亀山大市 亀山市納涼大会
宿泊施設・ 観光施設	名阪森林パーク 坂下まなびの森 （鈴鹿馬子唄会館・鈴鹿峠自然の家） 石水溪野外活動センター・キャンプ場	亀山サンシャインパーク 亀山市歴史博物館 かめやま美術館 白鳥の湯
その他	鈴鹿川（鮎友釣り） 亀山茶 美術ロソク	最新液晶工場 地ビール 中の山パイロット茶団地

表2-1 亀山市の地域資源

種別	資源名	
景勝地	観音山公園（鈴鹿国定公園） 羽黒山 関富士	筆捨山 観音山歩道 正法寺山荘跡（桜）
史跡	正法寺山荘跡 関宿重要伝統的建造物群保存地区 瑞光寺・権現柿 伊藤本陣跡 川北本陣跡 開雲楼と松鶴楼 延命寺・川北本陣門 高札場跡 御馳走場跡 関神社	福蔵寺・小万の墓 関地藏院（本堂・愛染堂・鐘楼） 西の追分 東の追分 山車倉 赤坂頓宮跡（まるやま公園） 日本三関・鈴鹿関跡
無形文化財・まつり	関宿夏まつり・神輿・関の山車 地藏院・火渡り儀式 東海道関宿街道まつり	関宿納涼花火大会 関宿スケッチコンクール
物産	関の桶 火縄 関の戸 志ら玉	道の駅石宿 関ドライブイン うなぎ料理 ポタン鍋
宿泊施設・観光施設	国民宿舎関ロジ 関宿旅籠玉屋歴史資料館 関まちなみ資料館 百六里庭	道の駅「関宿」 関ドライブイン 散策拠点施設いっぽく亭（西追分、地藏町、木崎町）
その他	関総合スポーツ公園・B&G 関海洋センター	日本の道100選

表 2-2 関宿・周辺地域の地域資源

さらに、関宿・周辺地域では、町並み保存を始め様々な住民による活動が展開されています。

団体名	設立	会員数	目的・活動内容
関宿保存会	S55.4	96	隔月で発行する会報「まちなみ瓦版」や毎月開催する月例会を通して、町並み保存の普及・啓発に取り組んでいる。（平成18年関宿町並み保存会が名称を変更）
関宿案内ボランティアの会	H12.4	23	関宿を訪れる見学者の案内活動を続けている。（無償）
関宿「関の山車」保存会	H16.4	4地区 自治会員 108名	関宿の夏の風物詩・曳き山車祭りは「関の山」の語源となったことでも知られている。現在は4台の山車が残り、それぞれ所有する自治会が保存・伝承に取り組んでいる。
亀山市観光協会	H 18.4	170	関町観光協会を基礎として亀山市観光協会へ発展。関駅内に事務所を構え、専任の事務局長、事務員を持つ。
鈴鹿関宿朝市まめぞろい	H 15.4	27	毎週日曜日 8:30～16:00 道の駅関宿で農産物（野菜、果物、茶、花、山菜おこわ、漬物、いばらもちなど）を直販。会員は、関地区内外の農業者で構成される。
関宿ふるさと特産加工グループ	S60.3	17	ふるさとの味を残したい思いから町内農家の主婦が中心となって結成。梅、あしたば、山菜などの町内で栽培された旬の野菜・果実を原料に減塩梅干し、梅ジャム、クッキー、山菜佃煮、あしたば入りあられ等を手づくりで加工し、道の駅その他店舗での販売やイベント・物産展等に出店している。

表 2-3 関宿・周辺地域の住民による活動状況

(2) 人口・世帯等の状況

平成12年の関宿・周辺地区の人口は3,884人で、亀山市(総数46,606人)に占める割合は8.3%となっています。経年的にみると、昭和60年までは人口は増加傾向にありましたが、その後、ほぼ横ばい状態で、平成7年～12年にかけては人口減少に転じています。

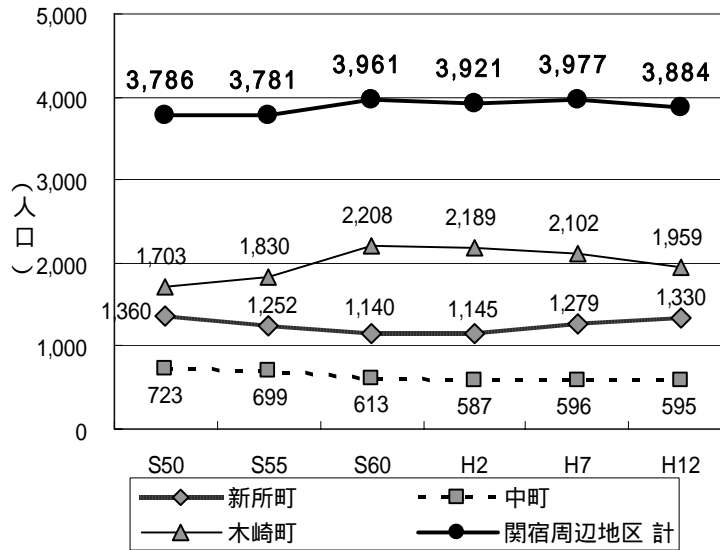


図 2-1 関宿・周辺地域の人口動態

資料：国勢調査(総務省統計局)各年10月1日現在

年齢構成については、年少人口(0～14歳)は14.0%、生産年齢人口(15～64歳)は64.3%、老年人口(65歳以上)は21.8%となっています。

また、就業構造を産業大分類別にみると、第1次産業は2.0%、第2次産業は41.2%、第3次産業は56.8%で、第3次産業の割合が高いことが特徴といえます。

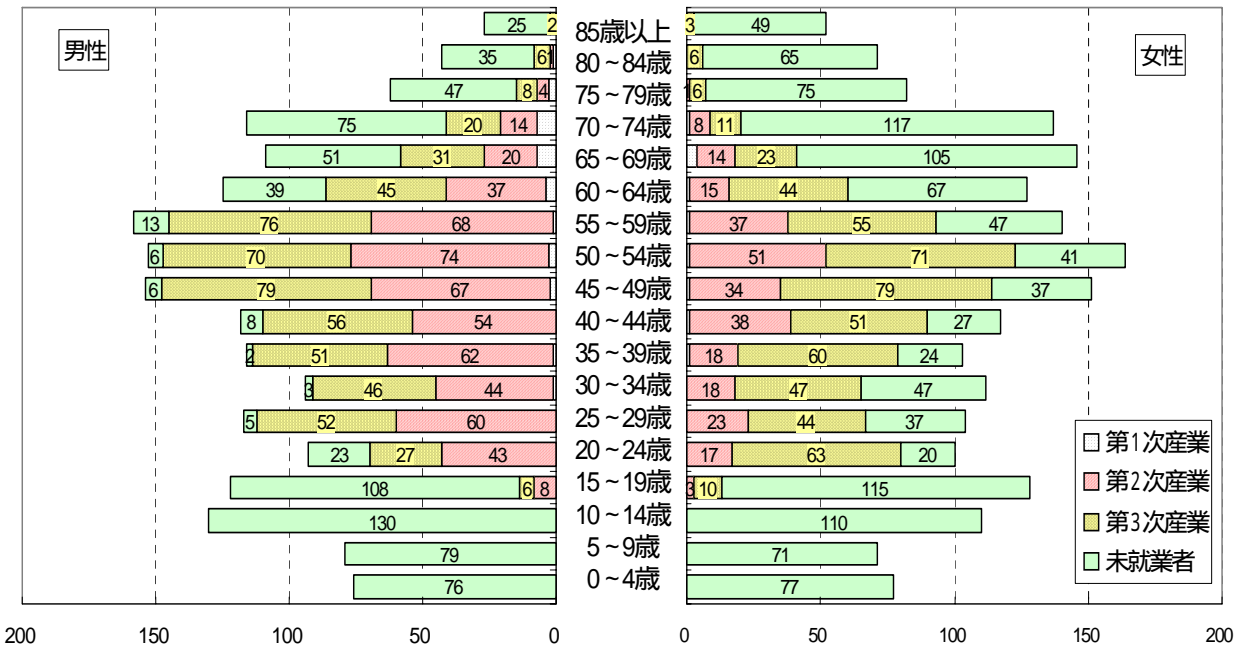


図 2-2 関宿・周辺地域の年齢別構成・就業構造

資料：国勢調査(総務省統計局)平成12年10月1日現在

世帯構成は、「高齢者のみの世帯」は21.2%、「65歳以上の親族のいる世帯」は44.7%で、いずれも亀山市全体と比べ高くなっています。一方、「6歳未満の親族のいる世帯の割合」は、亀山市全体と比べ低くなっています。

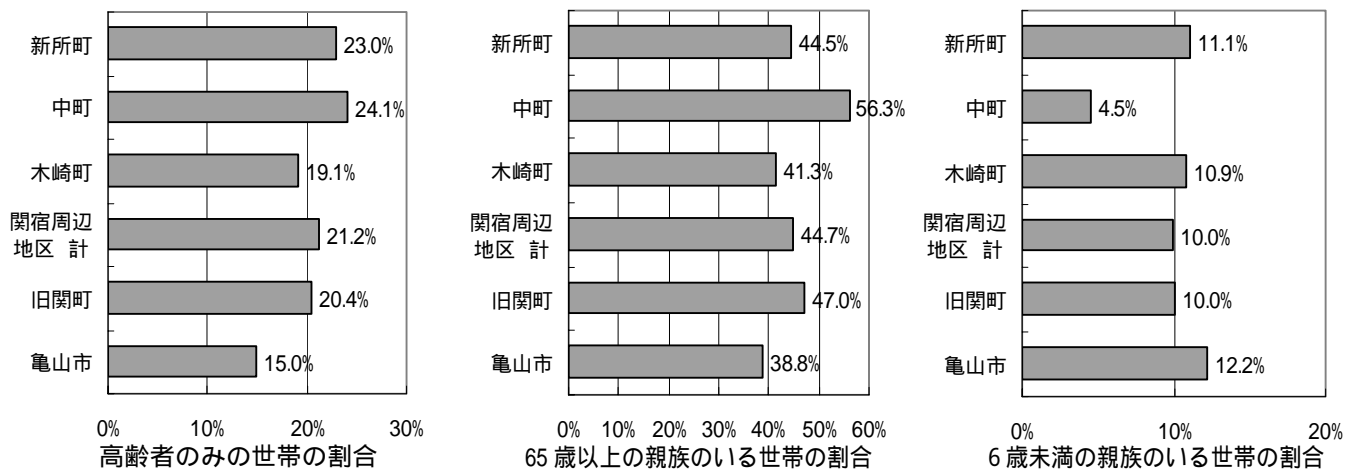


図 2-3 関宿・周辺地域の世帯の特性

資料：国勢調査（総務省統計局）平成 12 年 10 月 1 日現在

（3）観光入り込み客数の状況

関宿旅籠玉屋歴史資料館及び関まちなみ資料館の有料入場者数の推移をみると、平成 9 年度の開館年度から平成 14 年度まで急速に増加しその後やや落ち着いています。なお、平成 13 年～14 年にかけては、東海道宿制 400 年を記念したイベントなどが影響していると考えられます。

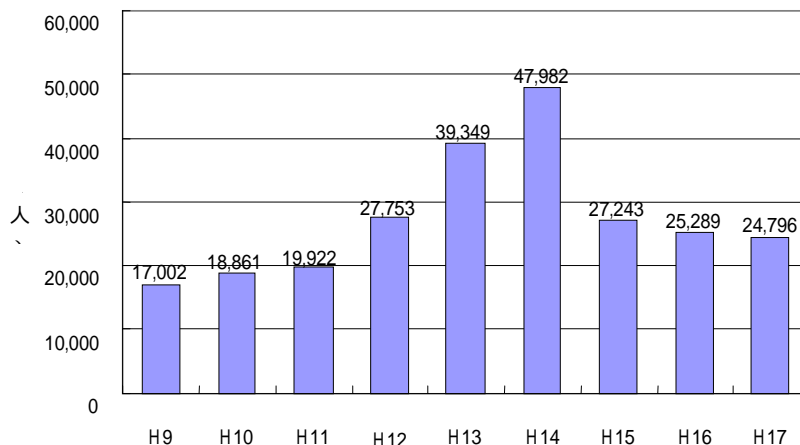


図 2-4 関宿旅籠玉屋歴史資料館及び関まちなみ資料館有料入館者数の年度別推移

資料：教育委員会

また、関宿周辺の主要施設への観光入り込み客数は下表のようになっています。

施設名	入り込み客数
観音山	34,585 人
道の駅「関宿」	129,422 人

表 2-4 関宿・周辺地域の主要施設の観光入り込み客数

資料：平成 17 年三重県観光レクリエーション入込客数推計書

(4) 町並み保存の経過

関宿の町並みに関する経過は下表のとおりです。

昭和	4年	都市美協会椽内吉胤理事が町長に保存を進言
	36年	群馬大学下田功工学部長が町長に保存を進言
	51年	朝日新聞記者が町長に保存を進言 翌1月1日朝日新聞に「関宿ルポ」が掲載
	54年	(社)地域問題研究所(観光資源保護財団)町並み調査
	55年	関町町並み保存会発足 保存対策調査(国庫補助事業)
		保存条例・関連規則等制定。町費による修理修景事業開始
	57年	三重県都市計画地方審議会において地区決定 文化財保護法に基づき保存地区の選定申請
	59年	選定答申(11月16日) 選定告示(12月10日)
	60年	国庫補助による修理修景事業開始 「関宿まちづくりシンポジウム」開催
	61年	東海道関宿街道まつり(以後毎年開催)
	62年	「日本の道100選」(建設省) 「関宿まちづくりシンポジウム」開催
	63年	保存地区中心部(約900m)を無電柱化 関まちなみ資料館開館
	平成	元年
3年		「潤いのあるまちづくり」自治大臣表彰、「美しい都市づくり賞」中部経済同友会 全国重要伝統的建造物群保存地区協議会総会開催【全国35地区、30市町村参加】 「関宿まちづくりフォーラム」開催(普請帳研究会など参加)
4年		西の追分環境整備 旧東海道1.8kmの地道風カラー舗装 テレビ中継放送所建設
6年		「深川屋」の修理に対し「三重県さわやか県土づくり景観賞」授与 「街道・町並みシンポジウム」(第9回国民文化祭みえ'94)開催
7年		町指定文化財「旅籠玉屋」復元整備着手 「歴史国道」に選定(建設省)
8年		東海道関宿ポケットパーク・デザインワークショップ
9年		関宿旅籠玉屋歴史資料館開館 歴史的景観都市連絡協議会総会 関大会
10年		百六里庭・眺関亭 完成 関宿町並み保存会(改称・改組) 東海道五十三次シンポジウム関宿大会開催 重要文化財地蔵院本堂・鐘楼修理工事完了 保存地区内の下水道事業に着手
11年		木崎地区の電線・電話柱移設
12年		関宿案内ボランティアの会 発足 新所地区の電線・電話柱移設 関宿空き家・空き地対策調査
13年		関宿西の追分休憩施設(西の追分いっぶく亭)完成 東海道400周年記念事業
14年		関宿地蔵町散策拠点施設(地蔵町いっぶく亭)完成
15年		関宿木崎町散策拠点施設(木崎町いっぶく亭)完成
16年		関宿「関の山車」保存会 発足 関宿高札場復元整備
17年		関宿重伝建選定20周年記念事業 国土交通省 「手づくり郷土賞(大賞部門)」受賞

表 2-5 関宿の町並みに関する年表

また、昭和 55 年度～平成 16 年度の 25 年間で、修理修景事業は 460 件、その他事業が 25 件行われ、年平均で修理修景事業は 18.4 件、その他事業は概ね年 1 件のペースで実施されてきました。この間、修理修景事業には約 6.50 億円の補助事業費が、その他事業には約 4.56 億円の費用が投じられています。

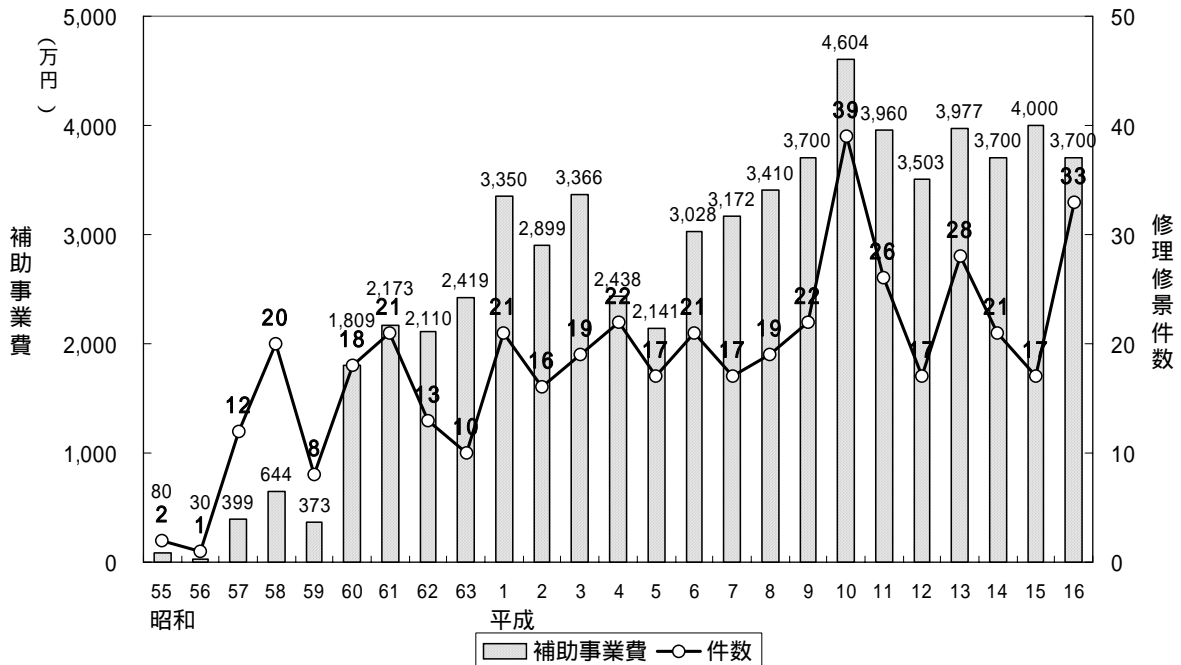


図 2-5 修理修景事業の補助事業費と事業件数の推移

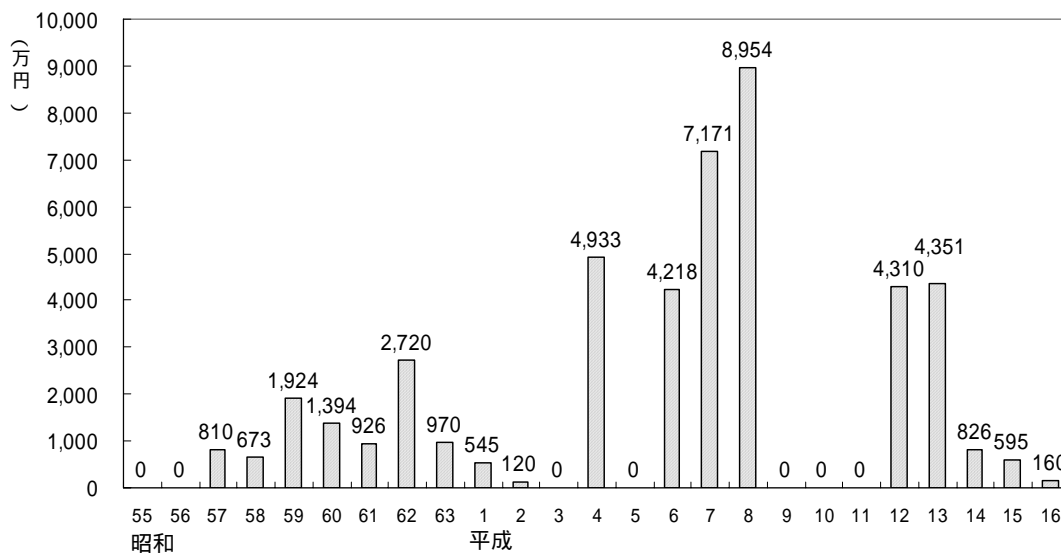


図 2-6 その他事業の事業費の推移

(5) 保存地区における空き家・空き地の現状

旧関町で平成 12 年度に実施した、重要伝統的建造物群保存地区における空き家・空き地の実態は下表のとおりです。

	保存地区全体	空き家	空き地
新 所	159	14 (8.8%)	12 (7.5%)
中 町	131	16 (12.2%)	9 (6.9%)
木 崎	99	5 (5.1%)	6 (6.1%)
計	389	35 (9.0%)	27 (6.9%)

表 2-6 空き家・空き地の状況

旧東海道に面した建物のみを対象とし、また社寺は除いた。

資料：平成 12 年度 関宿 空き家・空き地対策調査報告

	空き家	空き地
旧関町内	25 (71.4%)	12 (44.5%)
三重県内	2 (5.7%)	4 (14.8%)
三重県外	8 (14.3%)	11 (40.7%)
計	35 (100.0%)	27 (100.0%)

表 2-7 空き家・空き地所有者の住所

資料：平成 12 年度 関宿 空き家・空き地対策調査報告

2 - 2 地域住民・団体等の意向

(1) これまでに実施したアンケート調査の整理

関宿・周辺地区における住民の意向をみるために、平成7年2月に実施した「関町まちづくりアンケート調査」(都市計画マスタープラン策定時に実施)及び平成11年9月に実施した「第4次関町総合計画アンケート調査」の結果概要を整理しました。

【住みごごち】

平成7年調査によると、「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」を合わせると65.8%だったのに対し、平成11年調査では、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた割合は78.8%となり、13.0ポイント上昇しています。

平成7年調査では、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた割合は、関宿・周辺地域と旧関町を比較するとほぼ同数でしたが、平成11年調査では、関宿・周辺地域は旧関町の73.1%を5.7ポイント上回る78.8%でした。調査結果からは、住みごごちに対する評価は相対的に高まっているとみることができます。

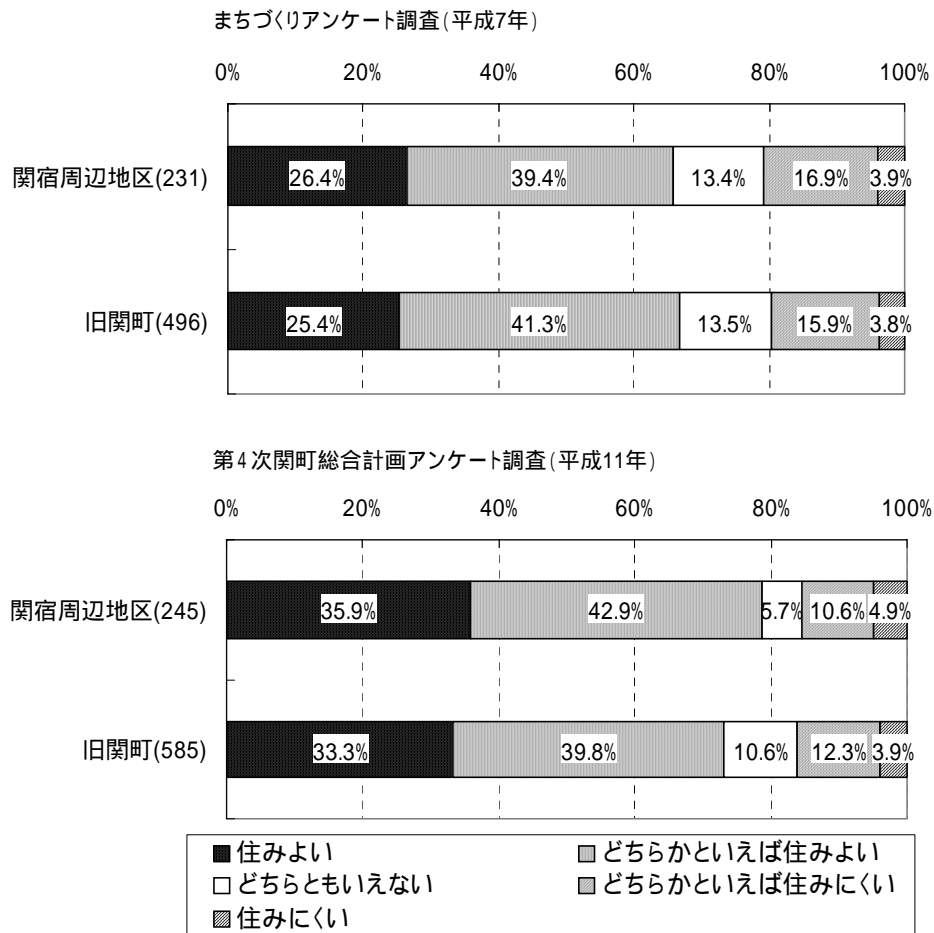


図 2-7 住み心地に対する評価

資料：「関町まちづくりアンケート調査」平成7年2月

：「第4次関町総合計画アンケート調査」平成11年9月

注1：「関宿周辺地区」= 新所町、中町、木崎町、小野

【定住意向】

平成7年の調査によると、「ずっと住み続けたい」が54.9%と半数以上を占め、「当分は住み続けたい」を合わせるとほぼ4分の3の住民が定住する意向を示されています。また、平成11年の調査では、「ずっと住み続けたい」は64.6%と、平成7年の調査結果と比べて9.7ポイント上昇しています。

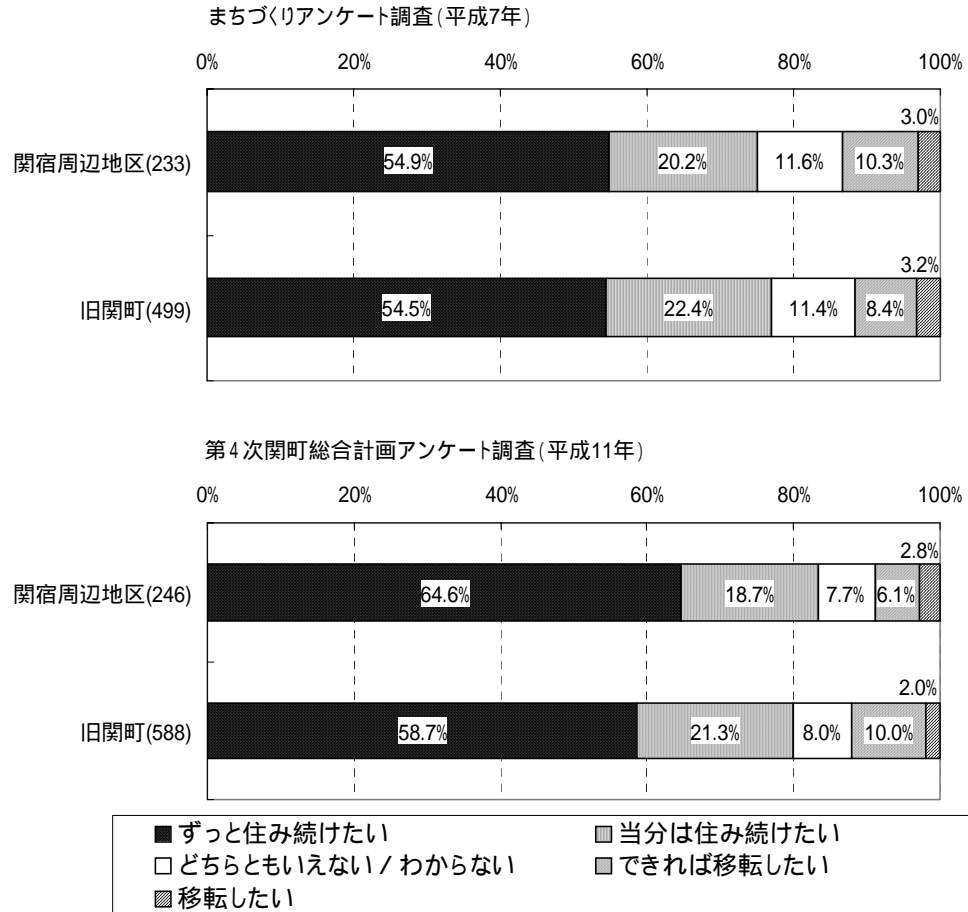


図 2-8 定住意向

資料：「関町まちづくりアンケート調査」平成7年2月

：「第4次関町総合計画アンケート調査」平成11年9月

注1：「関宿周辺地区」= 新所町、中町、木崎町、小野

【町並み整備の方向（平成7年）】

平成7年調査では、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている関宿の町並みの今後の整備の方向性について質問がありました。関宿・周辺地域の方の回答は、「町外から訪れる人を対象とした観光地」が39.4%、「町の人が静かに暮らせる住宅地」が37.2%となっており、両者がほぼ拮抗する結果となりました。

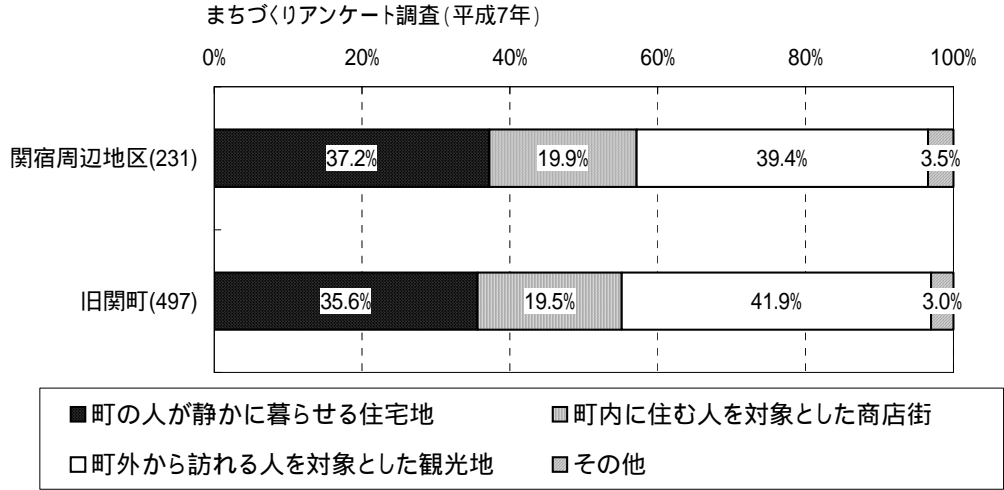


図 2-9 町並み整備の方向（平成7年）

資料：「関町まちづくりアンケート調査」平成7年2月

注1：「関宿周辺地区」= 新所町、中町、木崎町、小野

【まちづくりのために進めるべき主要な施策（平成11年）】

平成11年調査では、将来のまちづくりのために進めるべき主要な施策を複数回答（5つまで）でたずねています。旧関町全体では、若者の定住対策（51.9%）、自然環境の保全（49.2%）、高齢者・障害者などの福祉対策（48.3%）、医療保健対策（44.9%）、町並みや歴史、文化の保存・継承（44.3%）の順となっているのに対して、関宿・周辺地域では、第一位が町並みや歴史、文化の保存・継承（56.4%）となっており、町並み保存について重要とらえる割合が高くなっています。次いで、若者の定住対策（53.2%）、自然環境の保全（52.4%）、高齢者・障害者などの福祉対策（48.8%）、医療保健対策（45.2%）の順となっています。関宿・周辺地域の方が旧関町全体より高い割合を示している項目は次の9項目です。

	《関宿周辺地区》	《旧関町》	比較
若者の定住対策	53.2%	51.9%	(+1.3%)
自然環境の保全	52.4%	49.2%	(+3.2%)
高齢者・障害者などの福祉対策	48.8%	48.3%	(+0.5%)
医療保健対策	45.2%	44.9%	(+0.3%)
町並みや歴史、文化の保存・継承	56.4%	44.3%	(+12.1%)
商店街整備など商業振興	30.4%	25.7%	(+4.7%)
教育環境の整備	14.8%	14.5%	(+0.3%)
防災対策	9.2%	7.1%	(+2.1%)
人権擁護	4.8%	3.2%	(+1.6%)

数字は順位

表 2-8 まちづくりのために進めるべき主要な施策（平成11年）

資料：「第4次関町総合計画アンケート調査」平成11年9月

注1：「関宿周辺地区」= 新所町、中町、木崎町、小野

(2) 各種団体の意見【団体ヒアリングより】

地区住民座談会の開催に先立ち、関宿・周辺地域の整備に関係する各種団体に対するヒアリング調査を実施し、観光客の増加や生活環境に対する考え方、温泉の活用も含めた周辺整備のあり方などについてそれぞれご意見をいただきました。

【調査対象】

関町商工会・名店会	商工会・名店会の役員、関町商工会事務局など7名
亀山市観光協会	会長、事務局長の2名
関宿案内ボランティアの会、関宿町並み保存会	案内ボランティアの会の役員、町並み保存会会長など7名
亀山商工会議所	会頭、観光サービス部会長、専務理事の3名

【意見概要】

関宿に対する考え方について	
関町商工会・名店会	地域の資源として関宿をはずすことができない。 町並み保存の傍らで商売の発展も考えていかなければならない。 観光協会、保存会、商工会、名店会などそれぞれの意見が必ずしも一致していないのが現状である。
亀山市観光協会	観光協会としての自主財源がないため、観光資源を活かして財源を確保して自立していかないといけない。 訪問客に親切な お楽しみ散策マップ をつくる予定をしている。
関宿案内ボランティアの会、関宿町並み保存会	町並みを守り未来につなげることが大切。なぜ 賑わい を考える必要があるのか。 訪問客に評価されることはいいと思うが、我々は文化を見に来て欲しいと思っている。 町並みを保存する心は先祖から受け継いできたものであり、それと同じ想いで訪問客をもてなしている。
亀山商工会議所	関宿の町並みを歩いてみると素朴で感銘するが、市民でも歩いた経験がない人が多いのではないだろうか。 町並みの核となっている地蔵院が気軽に入りづらいのは難点である。 貴重な文化財もあるのにもったいない。 町並みの修理修景については、行政からの支援がもっとあってほしいと思う。町並みと居住が継続的に両立できるようなしくみが必要。 JRとタイアップするなど、多くの方々に見学してもらえるようなPRも考えていかなければならない。
亀山市全体のにぎわいづくりについて	
関町商工会・名店会	亀山宿は、道路を拡幅したためにシャッター通りになってしまった。
亀山市観光協会	関宿周辺では、観音山の植樹を実施してきたが、これというインパクトがない。 それぞれの駅を中心とした観光マップや自動車利用者やウォーキングで訪れる人のマップが必要だろう。
関宿案内ボランティアの会、関宿町並み保存会	市内の3つの宿（亀山宿、坂下宿）を大切にしたい。 にぎわいづくりは、町並み以外の市が所有する公園などの場所ですればいい。

亀山商工会議所	<p>関と亀山の間をバスでつなぎ、シャープなどの産業観光を織り交ぜながら、亀山市内を周遊できるルートがあればいいと思う。</p> <p>関と亀山を一体的に観光推進するのではなく、それぞれのいいところを伸ばし、結果的に連携していければ良いと考える。</p>
関宿を訪れる訪問客について	
関町商工会・名店会	<p>団体旅行の時間調整の場として扱われており、訪問客の数は増えても、お金は落としてくれない。</p> <p>団体客は、案内ボランティアの後を付いていだけで、商品を買ったり飲食店に入ったりできない。</p> <p>最低2時間滞在して、1時間程度の案内で、残りは自由行動にしてもらえると商業も活性化するのではないか。</p> <p>最近、関駅で乗降する中高年層の訪問客が多い。</p>
亀山市観光協会	<p>団体客は ついで観光 が多いので、関宿全体がミュージアムであるというイメージで整備を進めてきた。</p> <p>若い人がリピーターになるのかは疑問である。</p> <p>8月が少なく、5,6月や10,11月の訪問客が多い。</p>
関宿案内ボランティアの会、関宿町並み保存会	<p>案内ボランティアでは年間2万人近くの案内をしている。近年は中高年の割合が高くなったように感じる。</p> <p>案内するのも団体客が多く、玉屋の入館料が増えるのでいいが、見学しようという意識を持った人は少ない。団体客の中にはいやいや付いてくる人もいる。</p> <p>我々は 観光客 ではなく 見学者 のために案内をしている。</p>
亀山商工会議所	<p>団体客がバスで来て、ボランティアの話を聞きながらぶらぶらして帰る。ニーズはあるだろうが、お土産を買っていただけるような場所がない。</p> <p>関の花火大会には亀山の人が多く訪れている。亀山の人が行きたいと思う魅力が必要。</p>
温泉の活用について	
関町商工会・名店会	<p>温泉が観光資源として加われば、客層が変わるのではないだろうか。</p> <p>ついで観光 から滞在型観光にしていくべきだろう。</p> <p>昔の銭湯や旅籠的な施設があれば喜ばれる。</p> <p>温泉を核としたモールみたいな施設が周辺にあったらいい。 町並みの中に温泉施設があることに意義がある。</p>
亀山市観光協会	<p>温泉単体の魅力は未知数であり、目玉とはなりにくい。</p> <p>宿泊機能があれば多少は観光資源としての魅力となりうるだろう。</p> <p>この地域での滞在時間を引き延ばすための資源であると考えられる。</p> <p>福祉的な意味も含め、温泉が一つの魅力になるように整備して欲しい。</p>
関宿案内ボランティアの会、町並み保存会	<p>質の高い資料館をつくれればそれに見合った訪問客が来る。一方、温泉や足湯をつくったらそれに見合った訪問客がくるだろう。</p>
亀山商工会議所	<p>朝から夕方まで、楽しんでもらえるようにするため、少々割高な観光温泉として整備してはどうか。</p> <p>外国の温泉や箱根の小涌園のように、水着着用の露天風呂があってもいいのではないか。</p>

今後の関宿のにぎわいづくりについて	
関町商工会・名店会	<p>趣味の延長で開いている程度の店はやっていけるが、一定規模の設備投資が必要な店舗では成り立ちにくい。</p> <p>もう少し観光化して、訪問客向けの新たな商売が成り立つようにしていかなければならない。</p> <p>関宿のブランドのようなものが確立されれば、若い人も商売できると感じるだろう。そのような形が望ましい。</p> <p>個店ごとに一品でも魅力のある商品を開発し、付加価値のある商品をつくる。</p> <p>新たな商業者を迎え入れられる気風や、気軽に軒先で商売をしようかという人に対する支援が重要。</p>
亀山市観光協会	<p>おもてなし を推進しており、継続していきたい。</p> <p>生活を守ることも大事だが、思い切って戦略的に打って出ること必要ではないか。</p> <p>観光を前面に押し出すことも難しいし、ボランティアの方々も誇りを持ってやっている。</p> <p>お楽しみ散策マップは、今後の賑わいづくりを考える起爆剤となればいい。</p> <p>「生活のための観光、観光のための生活」と考え、生活を守りつつ、観光の魅力を伸ばす。</p>
関宿案内ボランティアの会、町並み保存会	<p>これまで大切に保存してきた町並みを使って観光を進める考え方には賛同しかねる。</p> <p>関宿の周辺については、観光を進め、町並みの中は保存を目的とするべきだ。</p> <p>ボランティアが付かない訪問客に対する案内が必要。</p> <p>儲かればいいという考えで他から来る事業者ではなく、住んでもらう人が増えて欲しい。</p> <p>若い人に対して想いを継承する必要がある。子ども向けの体験学習などにより次の担い手を育てていきたい。</p>
亀山商工会議所	<p>現在は、情報の発信が下手だと思う。新たにできた観光協会の会員数をさらに増やし、お金を使ってでもPRをしていかなければならない。</p> <p>バスの訪問者は、東の追分で降りして、西の追分で拾うなど、歩き人の流れを考えた見学コースを考えないといけない。</p> <p>新しいお土産の開発が必要である。</p>
関宿・周辺の整備方針について	
関町商工会・名店会	<p>亀山市における観光スポットとしての位置づけによる経済的な支援（住民税の減免など）が必要ではないか。</p> <p>観光シーズンに起きる駐車場・バスの問題の解決が優先課題である。</p> <p>道路沿いには生活のための最寄り品、町並みは訪問客向けの商品を扱うという商業集積のすみわけも考えられる。</p>
亀山市観光協会	<p>リピーターの状況を含め、しっかりとした調査をしないといけない。</p>
関宿案内ボランティアの会、関宿町並み保	<p>江戸時代の街並みに近づければ、自ずと訪問客は増えてくる。（東の追分や一里塚、本陣など）</p>

存会	関所の場所を探しあてて復元して欲しい。 駐車場を広げなければいい。 若い人が住みやすいと感じてくれるよう、裏道の整備は必須である。 住みたいという人に対しては空き家の斡旋ができればいい。
亀山商工会議所	レストランのリニューアルを含め、関口ッジの活用が課題となっている。 町並みは全体的なバランスを考えながら整備していかなければならないが、個人では限界がある。生活している人が窮屈な部分については、行政が直していくことも必要である。 時間をかけて整備していくべきである。

(3) 関宿・周辺地域住民の意見【地域座談会より】

関宿及び周辺地域におけるにぎわいづくりに関する地区住民の意向を把握するため、地域懇談会を開催し、下記のような意見をいただきました。

【開催日時・調査対象】

《Aグループ》	平成 18 年 2 月 7 日（火）午後 7 時～午後 9 時 関支所 3 階会議室 伝建地区内にお住まいの方から抽出 参加者 15 名
《Bグループ》	平成 18 年 2 月 9 日（木）午後 7 時～午後 9 時 関支所 3 階会議室 伝建地区外にお住まいの方から抽出 参加者 13 名

Q1. このまま 10 年経った場合、どのようなことが心配になると思いますか。

《Aグループ》伝建地区内	《Bグループ》伝建地区外
少子化・高齢化が進んでいる。 後継者不足による空き家の増加 まちの活気が低下、地域機能の低下 このままで伝建地区の維持が可能か？	町並みでの安全性の確保 観光客は増えない、メリットがない。 少子化・高齢化による空き家の増加 観光客のマナーによる環境への影響 いずれにしても住民が決める。

Q2. 現在の町並みをどのように思っていますか。また、今後はどうあるべきだと思いますか？

《Aグループ》伝建地区内	《Bグループ》伝建地区外
地域の誇りであり、より魅力的に 町屋や地域の住みやすさ、快適性の向上 訪問客と住民との交流や案内を進める。 みんなでこれからのことを考える。	規制地区を絞ってより自由度の高い利用を 賑わいを高め、みんなで盛り上げたい。 まちの方向をみんなで話し合って決める。 若い人の意見も聞きたい。

Q3. 町並みや観音山、温泉などを活用したこの地域の観光についてどう考えますか？

《Aグループ》伝建地区内	《Bグループ》伝建地区外
地域の社交場として温泉を活用（町並み、 関口ッジ、山車保存と拠点施設） 自然をいかす。 訪問客の滞在時間を引き延ばす。 おもてなしの心で住民の手で自分たちが できることをやる。	町並みと自然を合わせて、滞在時間を延ば す。 東海道 3 宿を市として一体的に振興する。 温泉の活用は町並みか関口ッジか 温泉は観光につながりにくい。 今が選択のときであり、生活を基本とした 観賞するまちに

地域懇談会の成果 【伝建地区内住民対象】

Q.1 このまま10年経った場合、どのようなことが心配になりますか？

伝建地区は守れるのか？

- ・保存が守れるか？
- ・保存問題（町並み、伝建地区）

高齢化

- ・高齢者はかりの町並みになる
- ・保存地区に住む住民の高齢化による活力の低下
- ・老人が増える（高齢者の町）
- ・高齢化
- ・高齢化

まちの活気が低下

地域の助け合いができない

- ・若い人達（後継者）が少なくなり、商家も少なくなるとはならないだろうか？
そのようにならないように何とか考えたい
- ・高齢化による火事の心配
- ・高齢化による諸活動の減少
- ・空洞化
- ・ルーツが消えていく？
- ・何も取り組みがなければ変わらぬか、静かなままでしょう？

少子化

- ・住民の高齢化
- ・若い人子供の減少
- ・遊びに行くのに車が必要
- ・老人が多くなる
- ・子供が少ない（子供の声が聞けない）

後継者不足

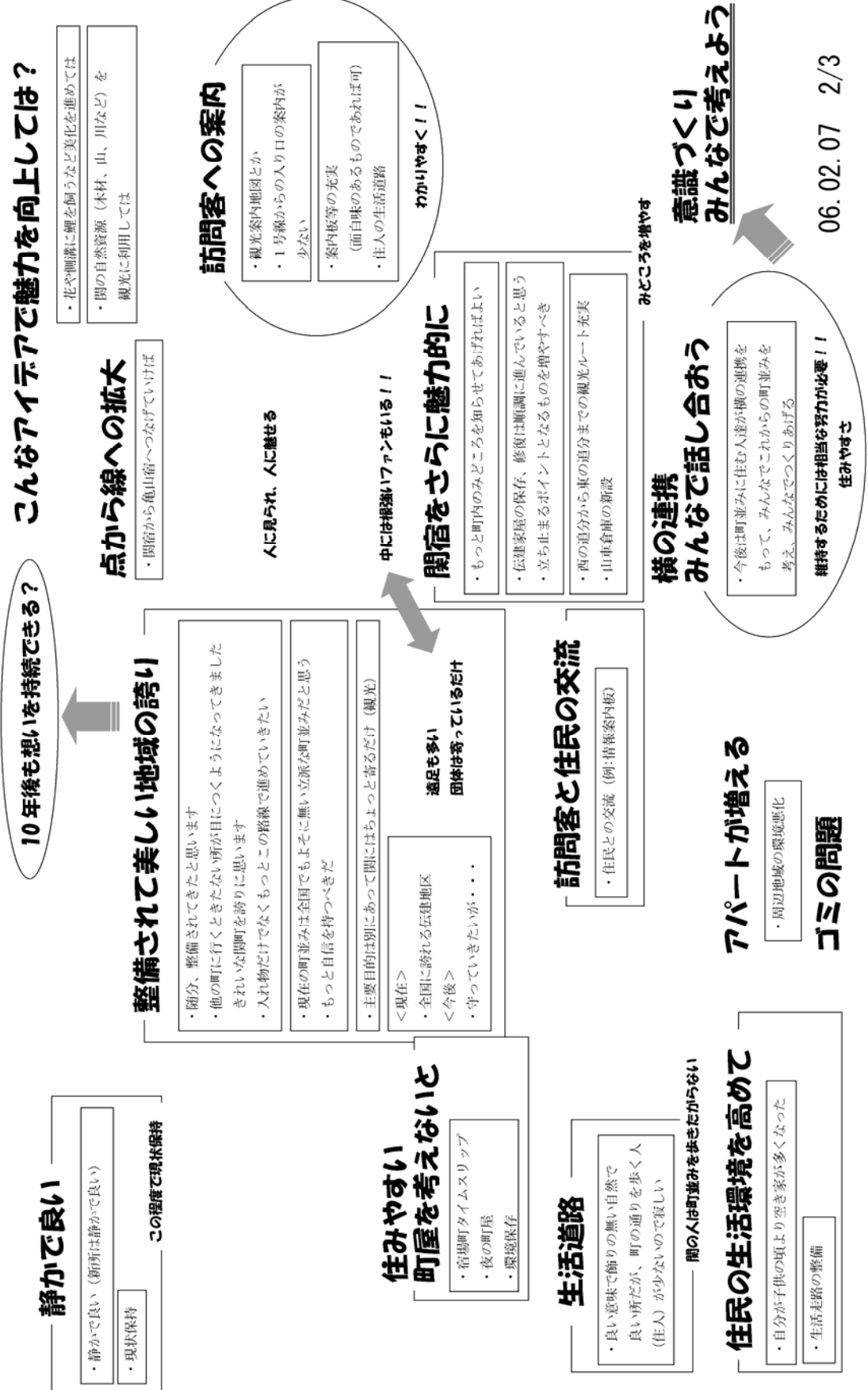
- ・町並みは高齢者に対し後継者の心配が続く

空き家の増加

- ・住民の高齢化→空き家の増加
- ・空き家が増えてきている
- ・空き家、空き地が増える
- ・空き家、空き地
- ・過疎化

地域懇談会の成果 【伝建地区内住民対象】

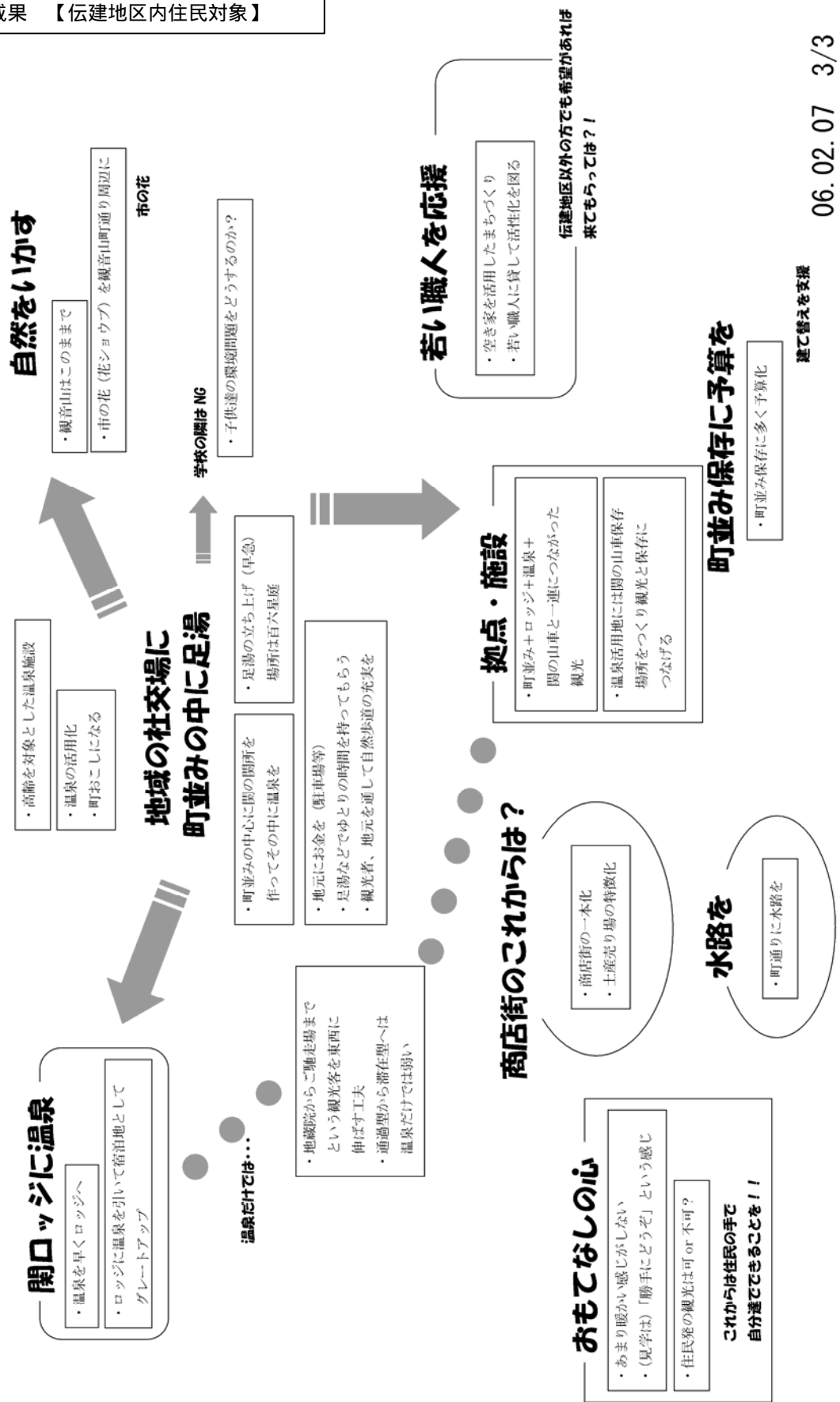
Q.2 現在の町並みをどのようになっていますか？また今後どうあるべきだと思いますか？



06.02.07 2/3

地域懇談会の成果 【伝建地区内住民対象】

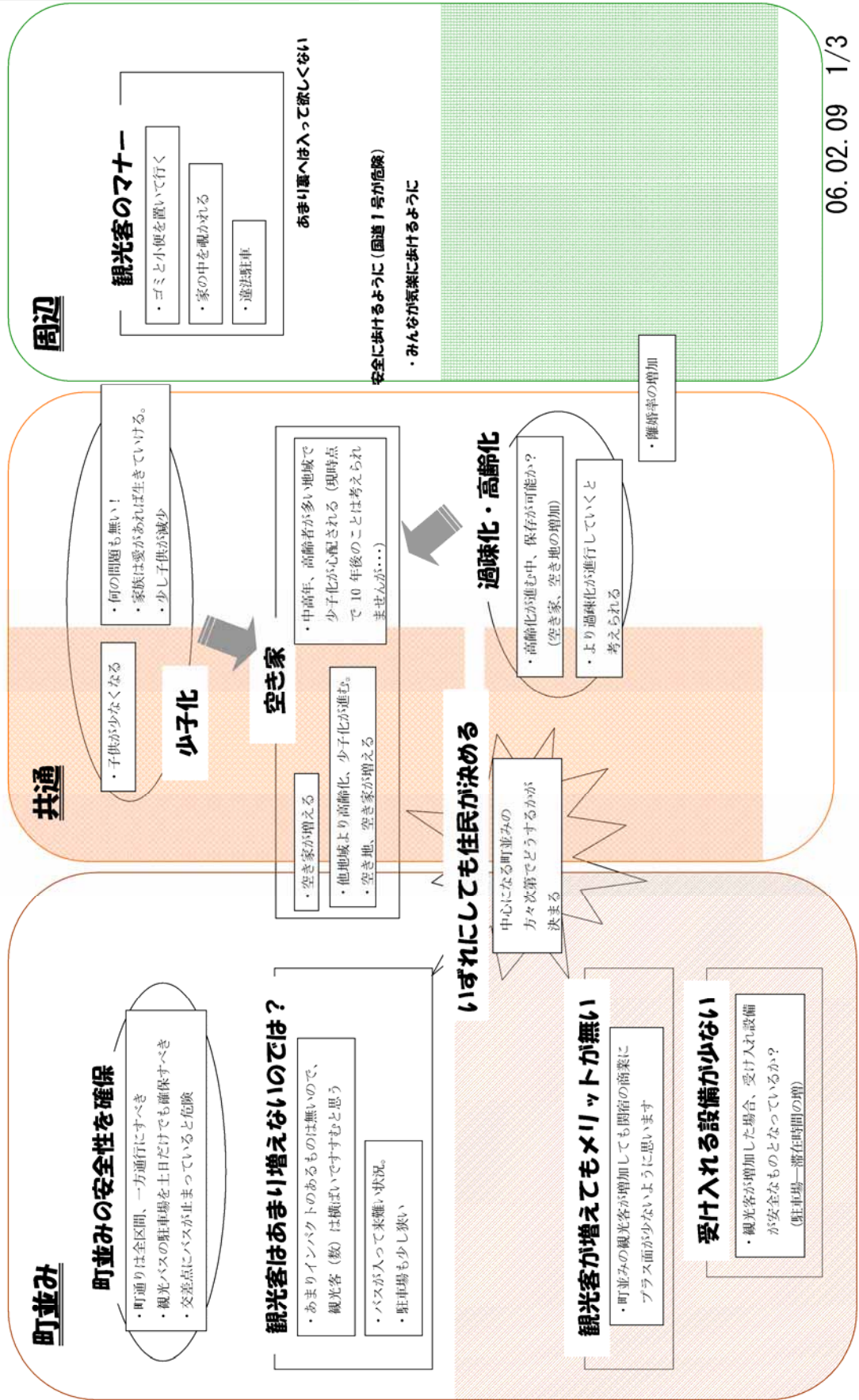
Q.3 町並みや観音山、温泉などを活用したこの地域の観光についてどう考えますか？



06.02.07 3/3

地域懇談会の成果 【伝建地区外住民対象】

Q.1 このまま10年経った場合、どのようなことが心配になると思いますか？



地域懇談会の成果 【伝建地区外住民対象】

Q.2 現在の町並みをどのように思っていますか？また今後どうあるべきだと思いますか？

規制するエリアを絞って 自由度を高めては？

- ・一応、歴史の町として評価できる
- ・『にぎわいゾーン』を狭める
(地藏院～吉野家迄にする)
- ・工場を誘致する
- ・郊外に団地を増やす

- ・ほぼ整備されてきているが中途半端である
- ・1.8km間の整備も良いが重点地域の指定

もっとにぎわいを！

- ・良いと思う

- ・もっと有名になって欲しい

- ・他市には無い貴重な地区なので
このまま残ってほしい

- ・新所地区、本崎地区については
もう少し店舗が様々で観光化して
も良いと思う

- ・町並み通りで生活されている方が
若い世代に代わった時にどこまで
守っていけるのか心配ですが
このような場への若い人の参加を

- ・『にぎわいゾーン』に住まれる
40代以下の方に今後の事について
アンケートをする

- ・現在の町並みは住民が生活して守っているが
町の方向がよく見えないように思います

どっち？

- ・町並みの地域からは外れた場所があるので
生活する上で困ったことなどはありません
が見学にみえている人の中を車で通るのは
ちよつと気がひけます

生活に欠かせない道路

町並みの中を車ではしるルールを

- ・駐車場が少なく、利便性に欠ける
- ・立体駐車場の確保
- ・町並みは朝～夕まで通行禁止

今後のことを若い人の意見を聞きたい

若い人はおその町並みに遊びに行く

観光客が来るのに商売のチャンスを見逃している
↓
温泉などを使って引き込む？

- ・中心部の人々がもっとチャレンジ精神をもつ
- ・古式豊かなまちづくり

町並みの中に若い人がいる？
→どうしよう話し合っ決めてほしいと

保存するのに力を入れる

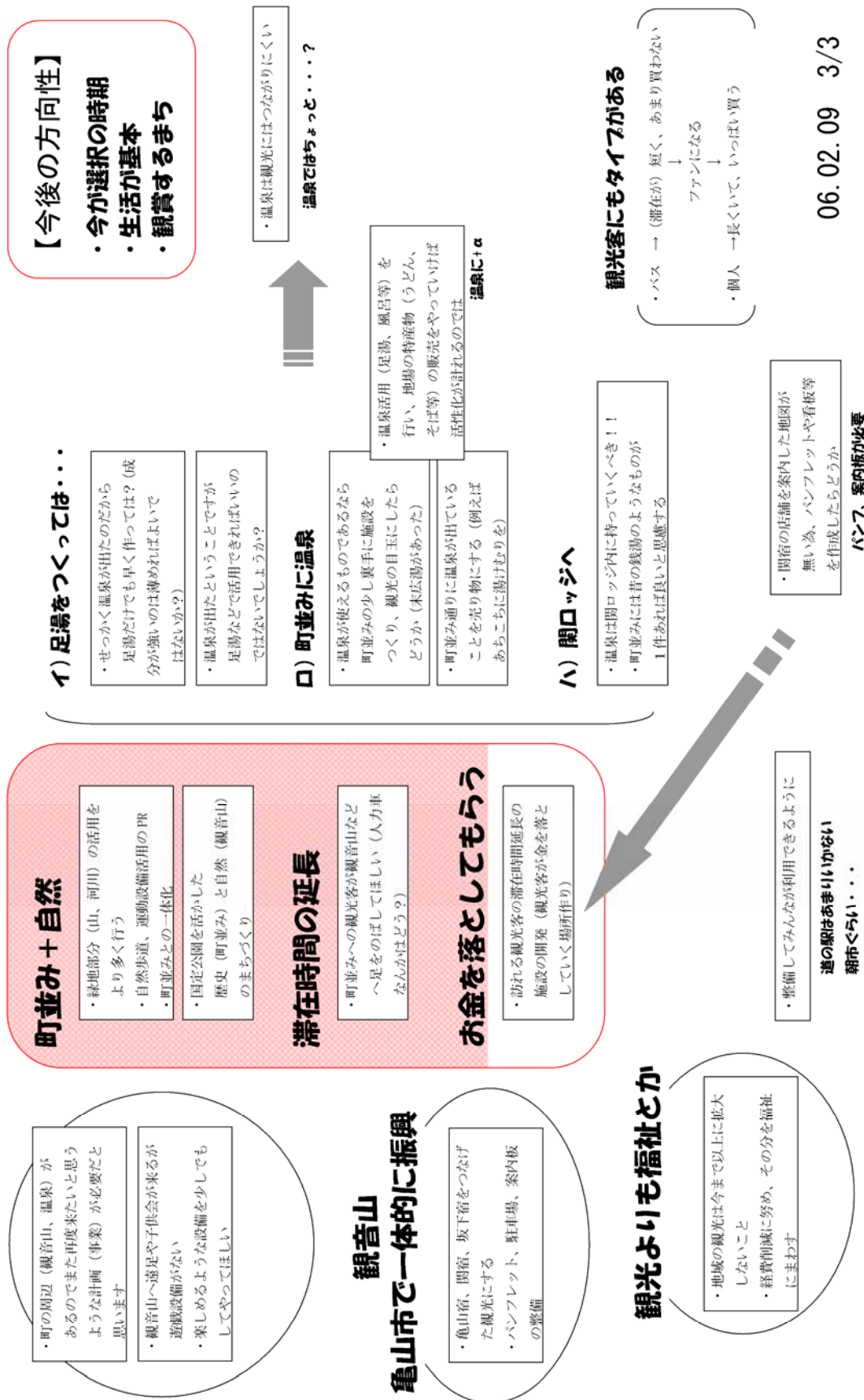
- ・古くて崩れかけている家は表だけでも市で直しては

伝建地区内外の住民が みんな盛り返したい

06.02.09 2/3

地域懇談会の成果 【伝建地区外住民対象】

Q.3 町並みや観音山、温泉などを活用したこの地域の観光についてどう考えますか？



06.02.09 3/3

(4) 策定WGによる検討経過

関宿・周辺地域におけるにぎわいづくりに関して、平成18年6月から4回の「関宿・周辺地域賑わいづくり基本方針策定ワーキンググループ会議（以下、策定WG）」を開催し、本方針の内容について検討しました。ここでは、策定WGでの議論の概要を整理します。

【第1、2回WG 「第3章 地域の将来方向」に関する意見・「第4章 にぎわいづくりのための基本施策と具体的事業・取り組みに」に関する意見】

第3章 地域の将来方向

3-1 にぎわいづくりの基本姿勢

(1) 住民まちづくりを基本に、にぎわいづくりを進める
「まちづくり観光」の考え方に賛同する。人と人との出会い、語らいを楽しみ、暮らしや文化を大切にするコミュニティをめざすべきである。 関宿が全国の町並み保存地区の観光のあり方のひとつのモデルを示せる可能性がある。 町並み、自然、地域住民による活動、交通を生かすことについては賛成できる。
(2) 「暮らしたいまちこそ、訪れたいまち」を信じて
少子高齢化に伴う地域担い手の確保が求められている。 定住満足度の低下をどうしたらいいか。地域住民が生き生きとした生活が出来ればいいと思う。 関宿・周辺地域を生活感、くらしがある町並みの全国モデルにしていきたい。
(3) 「良きパートナー」とともに
生活と集客・交流は相反するものではない。 訪問客の増加により日常生活が阻害されている。 立ち寄り型の訪問客のうち、何%かはファンになる。

3-2 地域の将来像と基本目標

(1) 地域の将来像
各資源が生かされれば、住みやすく訪れやすいまちになるだろう。 資源を充実させる努力をしていく結果、訪問者増、活性化につながればいいと思う。 地域の活性化は、にぎわいと生活のバランスを大切にしなければならない。
(2) 基本目標
<u>関宿の町並みが育んだ文化と誇りを受け継ぐ</u> 町並み周辺の景観形成は重要である。 少子化、後継者難から伝建地区を維持することに不安がある。 空き家を賃貸もしくは売却する永続的な活用システムとはどのようなものか。
<u>快適に暮らし続けることのできる環境を確保する</u> 生活道路、駐車場、防災面など環境整備が不可欠である。 交通条件を生かして定住を促進することは可能ではないか。 新たな雇用の場の確保をどのようにするかが課題である。
<u>人との出会い、ふれあい、語らいを楽しむ</u> 訪問客への案内、利便性の向上が必要である。 交通手段や数、町並み散策前後の行動など、訪問客の実態と意向を把握する必要がある。 量を質に転換するために地域がポリシーを持って、外部の資本などから守り、めざすべき地域をつくり上げる必要がある。 西～東追分までの特色が出ておらず、訪問客は中心のみの散策にとどまっている。

【第3回WG 「第4章 関宿・周辺地域にぎわいづくりのための基本施策、温泉の活用方策について」に関する意見】

第4章 関宿・周辺地域にぎわいづくりのための基本施策、温泉の活用方策についての検討
温泉の活用パターン

	温浴施設	足湯施設
町並みとの距離 ↑ 近 ↓ 遠	町並み近辺 末広座（末広湯）の復活	町並み内 空き地・空き家利用 (例：百六里庭、郵便局、地藏院)
	健康づくり関センター及び 観光駐車場横旧木村邸周辺	健康づくり関センター及び 観光駐車場横旧木村邸周辺
	道の駅 道の駅～地藏院付近	道の駅 道の駅～地藏院付近
	観音山・関ロッジ・併設	

温泉の活用イメージ

【温浴施設】

町並み近辺 末広座（末広湯）の復活	【整備・利用イメージ】 文化の拠点、地域住民と来訪者との交流の拠点とする。 町並みに近く、新たな魅力の付加となる。 来訪者の宿泊も可能にする。 【地域住民の意見（住民懇談会より）】 温泉を町並みに持ち込むのはいかなるものか。 温泉目当ての来客が増えてしまうのではないか。 空き家を利用して銭湯をつくるというのはどうか。 【策定WGでの意見】 かつて末広湯があった場所に整備するのがふさわしいのではないか。 町並み付近に温浴施設、道の駅に足湯の二本立てで整備してはどうか。 町並みの近辺で整備するなら、関宿の歴史的な位置づけを考慮する必要がある。
健康づくり関センター及び 観光駐車場横旧木村邸 周辺	【整備・利用イメージ】 源泉に近く、下水道にも接続しやすいので整備しやすい。 福祉の利用にウェイトがかかることや小中学校と近接していることが懸念される。 【地域住民の意見（住民懇談会より）】 地域の温泉に対する期待感が分からない。 高齢者をターゲットにした温浴施設を。 子どもたちの教育環境を考えるべきである。 【策定WGでの意見】 健康づくり関センター及び観光駐車場付近に温浴施設を整備して、訪問客と地域住民の交流の場にしてはどうか。
道の駅、 道の駅～地藏院付近	【整備・利用イメージ】 道の駅などへの来訪者も含め、より多くの利用が期待できる。 町並みやそこへくる来訪者との一体感を創出することが課題。 【地域住民の意見（住民懇談会より）】 温泉は観光にはつながりにくいのではないか。 【策定WGでの意見】 温浴施設を道の駅に整備して、地域住民のくつろぎ、訪問客の疲れを癒す場としてはどうか。 温泉から抽出される塩を道の駅で販売してはどうか。

<p>観音山・関ロッジ周辺・併設</p>	<p>【整備・利用イメージ】 関ロッジの浴槽や観音山周辺に温浴施設を整備する。 温泉と自然の相乗効果による地域資源の魅力向上が期待できる。 国定公園区域への施設建設、下水道への接続などの課題がある。</p> <p>【地域住民の意見（住民懇談会より）】 ロッジに温泉を引いて宿泊地としてグレードアップ。 温泉と町並みは区別するべきである。 温泉は税金で開発されるので費用対効果を議論すべき。</p> <p>【策定WGでの意見】 温浴施設を利用したい人は町並みから離れていても行くと思う。 観音山・関ロッジ周辺に1ヶ所整備してはどうか。</p>
-----------------------------	--

【足湯施設】

<p>町並み近辺 末広座（末広湯）の復活</p>	<p>【整備・利用イメージ】 町並みの空き地や空き家を活用して少人数の足湯を整備する。 町並みにある足湯として話題性があるが、駐車場の確保が課題となる。</p> <p>【地域住民の意見（住民懇談会より）】 百六里亭で足湯を整備してはどうか。</p> <p>【策定WGでの意見】 百六里亭などに足湯を整備して、休憩の拠点としてはどうか。 地藏院など多くの人が集まるところに足湯があってもいい。</p>
<p>健康づくり関センター及び観光駐車場横旧木村邸周辺</p>	<p>【整備・利用イメージ】 訪問客やセンター利用者、地域住民など多様な利用者が期待できる。</p> <p>【策定WGでの意見】 健康づくり関センター近辺で足湯を整備して、小さな取り組みから始めていけばいいのではないか。</p>
<p>道の駅、道の駅～地藏院付近</p>	<p>【整備・利用イメージ】 既存の道の駅や今後新設する駐車場などに足湯施設を整備する。 道の駅利用者など相当数の利用者が確保できる。</p> <p>【地域住民の意見（住民懇談会より）】 観光駐車場の整備。 第2の道の駅を支所の近くにつくる。</p> <p>【策定WGでの意見】 道の駅に足湯があれば、道の駅利用者も増えると思う。</p>

2 - 3 地域資源活用の強みと弱み

関宿・周辺地域において、地域資源を活用するにあたっての魅力（強み）と問題点（弱み）を評価すると以下のように整理されます。

（１）町並み

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・関宿の町並みは、昭和 59 年に文化財保護法に基づく重要伝統的建造物群保存地区（伝建地区）に選定された。多くの町屋や寺社など高い歴史文化性を有するとともに、約四半世紀も継続して修理・修景事業を進め、文化的にも高い評価を受けている。 ・関宿を訪れる訪問客（関宿旅籠玉屋歴史資料館及び関まちなみ資料館有料入館者数）は年々増加する傾向にある。
魅力	<p>関宿の町並みは、地域住民はもとより亀山市にとっても貴重な歴史文化資産であり、地域の財産となっている。</p> <p>伝建地区として高い知名度を誇り、多くの人を訪れている。これらの交流人口は地区のにぎわいづくりの可能性を広げる要素となる。</p> <p>関宿・周辺地区は、町並み以外にも多くの歴史文化資源を有しており、これらが地区全体に分布している。</p> <p>亀山市には、旧東海道などをキーワードに、町並みを核としながらも市全域がつながる文化のまちとして打ち出すことができる魅力が十分にある。</p>
問題点	<p>関宿の活用については、観光客の増加をある程度容認し、訪問者との交流の中から地域活力につながる方策を見いだしていこうとする考え方と、関宿の歴史的文化的価値を高め、また生活者の生活環境を保全していくことにむしろ重点をおく考え方が見受けられ、方向性が統一されていない。</p> <p>町屋の居住性や地区全体の居住環境に対して改善が必要であるという意見がある。立ち寄り型による観光客を中心に、訪問客の増加により、地区住民の日常生活が阻害されてしまうという声も聞かれる。</p>

（２）自然

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・関宿・周辺地域は、関宿の町並み景観の背景ともなる鈴鹿の山々がそびえ立つなど、豊かな自然に取り囲まれている。 ・四季折々の花が咲く観音山公園から西側は鈴鹿国定公園に指定され、東海道自然歩道も整備されている。
魅力	<p>居住地を選択するにあたり、自然に囲まれていることは、居住環境を評価する上で重要な要素である。</p> <p>近年のウォーキングブームなどにより、関駅を起点に東海道自然歩道を歩く人が増えている。</p>
問題点	<p>関宿・周辺地域の自然について訪問客に対する案内が十分にできていない。</p> <p>自然散策と町並みの連携が不十分で、地域資源の魅力を相乗的に引き出せていない。</p>

(3) 交通

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・関宿・周辺地域の付近で、東名阪自動車道、近畿自動車道伊勢線（平成 17 年直結線開通）名阪国道が連絡しており、自動車による交通の結節点となっている。また、2008 年には、第二名神自動車道（亀山 JCT 大津 JCT）が開通予定である。 ・一方、年間約 16 万人の利用者を抱える JR 関駅を窓口とする鉄道は、関駅から亀山駅までの連絡の円滑化や複線電化などの問題を抱えている。
魅力	<p>関西と東海をつなぐ自動車交通の軸としての性格を持つ道路を利用し、多くの訪問客が関宿・周辺地域に流入している。また、第二名神高速道路の開通により、京都・滋賀方面からの訪問客の流入が期待できる。</p> <p>市内の幹線道路整備により生活利便性が確保されている。また、亀山市として旧東海道を東海道歴史文化回廊として整備される予定である。</p>
問題点	<p>大型バスなどを利用した、団体の立ち寄り型訪問を受け入れることにつながっている。</p> <p>鉄道の利便性が良くないため、日常的な生活や訪問客の移動手段として利用しづらい。</p>

(4) 地区住民による活動

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・関宿・周辺地域では、町並みの保存や案内に関する団体（関宿保存会、関宿案内ボランティアの会）や地域のまつりに関する団体（関宿「関の山車」保存会）集客交流を図る団体（亀山市観光協会）道の駅「関宿」での生産品販売グループ（鈴鹿関宿朝市まめぞろい、関宿ふるさと特産加工グループ）など、多くの団体がそれぞれの目的のもと活発に活動している。
魅力	<p>これらの団体の内発的なエネルギーにより、地域の歴史・文化の継承、祭りの保存などを通じて歴史文化性の高い地域となることができる。</p> <p>団体を始め地区住民によるおもてなし意識を醸成させることにより、訪問客と地区住民の交流が望まれる。</p> <p>道の駅での地産地消の推進などを拡大することにより、町並みと道の駅との連携が強まることが期待される。</p>
問題点	<p>今後の関宿・周辺地域の方向性について団体間で考え方の相違があるとみられ、今後の話し合いによる合意形成が必要である。</p>

(5) 温泉

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 17 年に湧出が確認された温泉について、平成 17 年度に成分調査等を実施した結果、療養泉（ナトリウム - 塩化物強塩温泉）に該当する。
魅力	<p>特徴のある塩泉であり、泉質を PR することで広い範囲からの利用者が想定される。関宿・周辺地域において、観音山や関ロッジ、町並み、道の駅「関宿」など様々な場所での利用が考えられる。さらには浴場から足湯まで利用方法についても様々な選択肢がある。</p>
問題点	<p>温泉そのものの集客効果を疑問視する声が出ている。また、仮に集客があった場合、町並みへ不特定の訪問客が流入する可能性がある。</p> <p>泉質により、設備や湯処理施設等更なる活用の検討が必要である。</p>

2 - 4 関宿・周辺地域におけるにぎわいづくりの課題

今後の関宿・周辺地域におけるにぎわいづくりに向けた課題を以下の3つ視点から整理しました。

(1) 関宿・周辺地域の 暮らし

【暮らし続けたいくなるような住環境の整備】

昭和59年に重要伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）に選定された関宿では、約20年間で、通りに面した町屋の外観の維持・修景が進められてきたことにより、内外から高い評価を受ける町並み景観を形成してきました。しかし、建築後かなりの年数が経過した伝建地区の町屋は、相対的な居室の暗さや気密性の低さ、土間など建物内の段差など、その住環境は快適ではない面もあります。

また、関宿・周辺地域の生活道路は狭隘なものが多く、日常的な交通はもとより、地震や火災などに対する対策が必要です。特に、旧東海道沿道には郵便局や銀行など各種生活利便施設があるため、訪問客など歩行者の安全性を確保するための対策の検討が求められます。さらに、訪問客によるごみのポイ捨てなどを防止し、花植えなどにより関宿・周辺地域全体の環境美化を進めることも必要になります。

したがって、伝統的な町屋の外観を継承しつつ、快適に住まう方法や住居以外の町屋活用方法について研究するとともに、地域住民の生活道路となる裏道の整備や沿道の環境美化を進め、暮らし続けたいくなる地域にしていくことが課題です。

【少子化・高齢化に伴う地域機能の担い手確保】

昭和60年まで増加傾向にあった関宿・周辺地域の人口は、平成7年以降減少に転じており、少子化・高齢化が進んでいます。特に、伝建地区を中心に高齢者のみの世帯が多くなり、今後は日常生活の助け合いの継続など、これまで地域で担ってきた機能の維持すら不安視する声も寄せられています。

また、伝建地区においては、町並みを形成する建物に住む後継者が減少しており、旧東海道沿いの約10%近くが空き地・空き家になっている状況は今後も悪化していくと考えられます。

そのため、高齢者等に対する福祉サービスや地域福祉活動の活性化などにより、いくつになってもいきいきと暮らし続けられる地域を維持する一方、亀山市内外で働く若年世帯を含めた定住促進や子育て環境の向上などにより、今後の関宿・周辺地域を担う人材を確保することが課題です。

【空き地・空き家の活用システムの構築】

関宿・周辺地域における空き地・空き家は、町屋の居住環境の問題や町屋居住者の高齢化及び後継居住者の不在などにより、今後も増加すると推測されます。建物は使用されてこそ、その形態や機能を維持できるものであり、空き家が増え続けることは、地域の活気の減退につながるだけでなく、これまで守られてきた町並み景観を維持する上でも問題となるでしょう。

しかし一方では、京町家の物件紹介など町家倶楽部ネットワークなどの事例に見られるように、伝統的な町並みと町屋に価値を見出し、居住や店舗の出店を望む人々の存在が顕在化しており、実際に関宿の伝建地区においても町屋の賃借についての問い合わせなども数件ある状況です。

そこで、関宿・周辺地域の空き地・空き家所有者から土地や建物を賃借もしくは買収し、建物の保全や改修を行いつつ、入居希望者に対して賃貸もしくは売却をする持続的な活用システムを構築することが課題です。

(2) 町並みや住民との ふれあい

【町並み景観の継承と訪問客の受け入れ】

現在の一般的な関宿に対する評価は、“伝統的な町屋や寺社で構成される町並みとその背景である鈴鹿の山々が織り成す景観が美しいことに加えて、そこに住む人たちの生活の雰囲気を感じることができる”というもので、とりたてて観光地化されていないことも関宿に何度も訪れる訪問客を増やす要因となっています。地区住民や各種団体、有識者の全員が関宿の町並みを誇るべき宝物であると評価しており、今後も守り続けるべきで、観光地化により生活感が失われることは望ましくないという点で一致しています。

一方、伝建地区への訪問者が年々増加していることを受け、地区外・市外から訪問客向けの店舗参入が見られます。また、関宿・周辺地域の商業振興を進め、訪問者の地区内での買い物や飲食につなげることも必要であるという意見も寄せられています。

これらを踏まえ、今後の関宿において、これまで受け継がれてきた生活のにおいがする町並みを守ることに並行して、それを阻害しない程度に訪問客を受け入れ、一定の経済効果を生み出す手法を検討することが課題です。

【地域全体の魅力向上と訪問客にも大切にされる関宿づくり】

関宿は、中部圏と近畿圏つなぐ東名阪自動車道・名阪国道、国道一号など広域交通網の結節点に近いこともあり、多くの人々が広い地域から関宿を訪れます。また、町並み景観の背景ともなっている観音山公園から鈴鹿峠へと続く鈴鹿国定公園や湧出が確認されている温泉など、今後の集客を図る上での魅力となる複数の資源があります。

しかし、現在の関宿には、団体旅行の途中経由地として訪れ、短時間で次の目的地に移動するいわゆる“立ち寄り型観光”が目立つ。これらの団体訪問客の多くは、関宿・周辺地域では食事や土産物の購入などが見込めない上に、飲酒した状態でのみち歩きやごみのポイ捨てなどにより関宿らしさを損ねる行動も見られるのも事実です。

そこで、湧出が確認されている温泉を始め、鈴鹿国定公園や国道一号沿いの道の駅「関宿」など周辺の資源と連携を深めることにより関宿・周辺地域全体での回遊性・滞在性を高め、立ち寄り型観光から脱却し、歴史文化の魅力を中心に、自然や温泉も楽しめるエリアとして、中高年の個人訪問客などをターゲットとした魅力の向上を図ることにより、地域の魅力に共感できる質の高い訪問客を集め、関宿を愛する人々に支えられる地域づくりを進めることが課題です。

【おもてなしの心の醸成による地域住民と訪問客との交流】

「関宿案内ボランティアの会」は、関宿を訪れる人々に対して、町並みの案内を無償で行っており、その回数は年間約900回を数えるまでになっています。しかしながら、案内の対象は基本的にグループ・団体に限定されており、多くの個人客は市の教育委員会が発行している関宿イラスト案内図などを頼りにまち歩きをしていると思われます。

一方、近年、人をまちに迎え入れ、訪問客が自分たちのまちを見て評価してくれることに対する楽しみ・喜びを実感する地区住民のホスピタリティ（おもてなしの心）を重要視する動きが全国的に見られ、地域懇談会でも地元住民発の観光・おもてなしの実践についての提案がありました。

これらから、関宿・周辺地域においても、地域住民自らが楽しみながら訪問客を迎え入れ、地域の財産である町並み景観や自然などを共有して交流することが望まれており、そのための手法などを研究して実践することが課題であるといえます。

(3) 地域の将来を支える しくみ

【亀山市全域の観光魅力の向上と関宿・周辺地域の位置づけの明確化】

亀山市には、関宿と同じく旧東海道の宿場町であった亀山宿や坂下宿を始め、亀山城跡や鈴鹿峠など歴史にまつわる資源はもとより、石水溪や東海自然歩道、四季折々の表情を魅せる豊かな自然など集客交流につながる可能性のある多様な観光資源があります。

一方、合併に際して策定された「新まちづくり計画」で にぎわいゾーン に位置づけられ、市内で最も集客力がある関宿・周辺地域については、亀山市全体の今後の方向性とリンクして検討しなければなりません。

今後、市内の資源がそれぞれの魅力を引き伸ばすとともに、東海道三宿をつなげた周遊ルートの設定など、それぞれを深く連携させた市としての亀山市の観光魅力の向上を図る必要があります。また、その中における関宿・周辺地域の位置づけと方向性を明確にすることが課題です。

【地域住民主体による関宿・周辺地域の将来像の協議】

伝建地区に選定されてから継続してきた歴史文化の継承に重心を据えるか、増加する訪問客に対応し、産業としての集客を受け入れる方針転換をするかが地域住民の間でも意見が分かれています。どちらの見解においても、伝建地区の町並み景観は地域の誇りであるという認識や地域住民の生活環境の向上を図ることなど、考えが共通している部分も多いのですが、これまで双方の考え方を提示し、地域の将来について膝を交えて十分に議論できていません。

しかし、合併や本方針策定などを契機に、いくらかの多様性を容認しながらも、今後についての大きな方向性を示し、それに沿った形で地域のにぎわいづくりを進めていくことが求められます。地域懇談会や策定WGにおいても、地域住民が集まって意見を出し合い、これからの地域の将来像を自分たちの手で決めるべきであるという意見も出されており、そのための場の提供やコーディネートが今後の課題です。

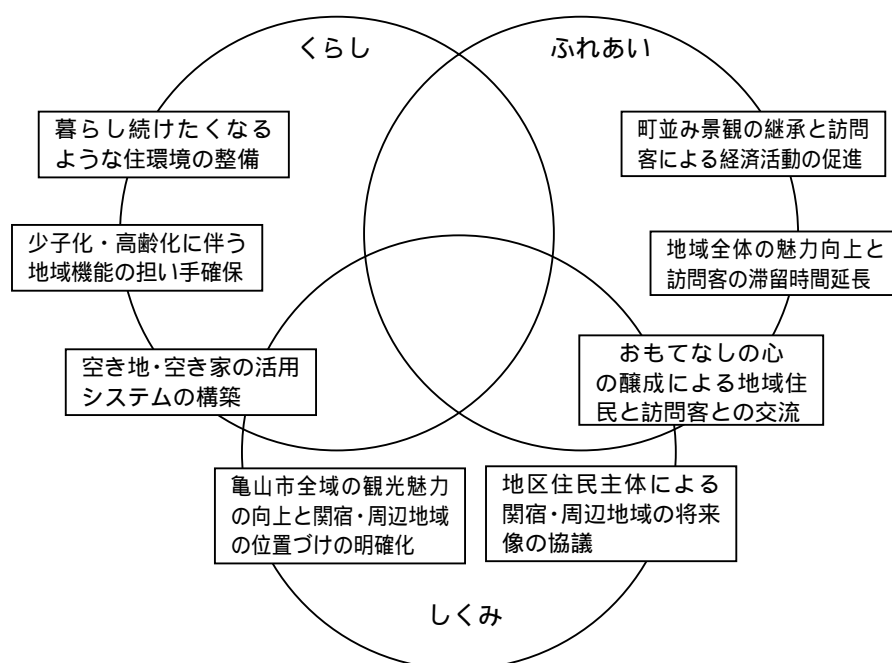


図 2-10 にぎわいづくりのための課題整理

第3章 関宿・周辺地域の将来方向

3-1 にぎわいづくりの基本姿勢

(1) 住民まちづくりを基本に、にぎわいづくりを進める

～ “観光＝観国之光（国の光を観る）”、本物の「まちづくり観光」を推進する～

関宿およびその周辺地域のにぎわいづくりを推進していくにあたっては、関宿の町並みの今後の方向性が大きく影響します。関宿の町並みは、生活者の暮らしが町並みに根付いていることが大きな特徴であり、「生活者が住み続ける町並み」であることが基本となります。一方、今後の関宿の町並みのあり方についての有識者の見解は総じて、「ある程度の観光化は進めていくべき」というものでした。

関宿の町並みがもつ文化財としての価値を維持・継承し、地域で暮らす人々の生活環境の向上を図ろうとする考え方や、その資産を交流資源として活用し地域振興を図ろうとする考え方など、多様な考え方が地域に内在していることを前提としながら、地域住民による総合的なまちづくりに取り組む中で、地域の定住環境、来訪者の満足度、それぞれの側面で問題が生じないようにバランスをとりつつ、地域全体の持続的な発展をめざしていくような、「まちづくり観光」の考え方を地域に定着させ、関宿・周辺地域の新しいにぎわいづくりを推進していきます。

(2) 「暮らしたいまちこそ、訪れたいまち」を信じて

まちづくりが、地域住民の、地域住民による、地域住民のためのものであると同様に、「まちづくり観光」は、観光客のために行われるというよりも、まずは、地域住民のために、あるいは地域住民に還元されるものが必ずあるということを前提に行われることが大切です。

逆説的に言い換えれば、「地元住民にとって楽しく快適でないまちが、来訪者にとって楽しいまちであるはずがない」ということです。

地域住民にとって暮らしやすいまちづくり、そして一生暮らしていきたいと思えるようなまちづくりを行うことで、本物志向の来訪者にとっては訪ねてみたい、あるいは再訪してみたいまちになるのではないのでしょうか。「暮らしたいまちこそ、訪れたいまち」を信じて、暮らしづくりの発想を大切に「まちづくり観光」を推進していきます。

(3) 「良きパートナー」とともに

関宿・周辺地域の「まちづくり観光」の推進は、地元住民が主体性をもって取り組んでいくことが基本ですが、地元住民だけで対処していかなくてはいけないという意味ではありません。

地域の情報を広く発信し、地元住民のみならず亀山市民、さらに広範な地域からの人々の参画を得て、取り組まれることが望まれます。

関宿の町並み保存について、有識者からの意見はある程度の観光化は進めていくべきであろうとの意見でした。そこには、町並み保存活動を継承していくためには、外部からの力も一定程度求めていかなくてはいけないのではないかとの考え方があります。

より多くの人々を関宿・周辺地域の良きパートナーとして迎え入れ、これら多くの応援団との間に相互に深い信頼関係を構築していくような働きかけを展開しながら、地域のにぎわいづくりに取り組んでいきます。

解説：「まちづくり観光とは」

財団法人アジア太平洋観光交流センター『観光まちづくりガイドブック』（観光まちづくり研究会編、2000.3）によると、「観光まちづくり」とは、「地域が主体となって、自然、文化、歴史、産業など、地域のあらゆる資源を生かすことによって、交流を振興し、活力あるまちを実現するための活動」と定義されています。

従来しばしばみられた負の波及効果をもたらすような観光開発、すなわち主体や目的意識が不明確で、観光資源、来訪者満足度、そして地元住民の定住環境などがバラバラとなり対立してしまうような取り組みに対する反省に立った考え方です。この差異をわかりやすく表示したのが図 3-1 です。

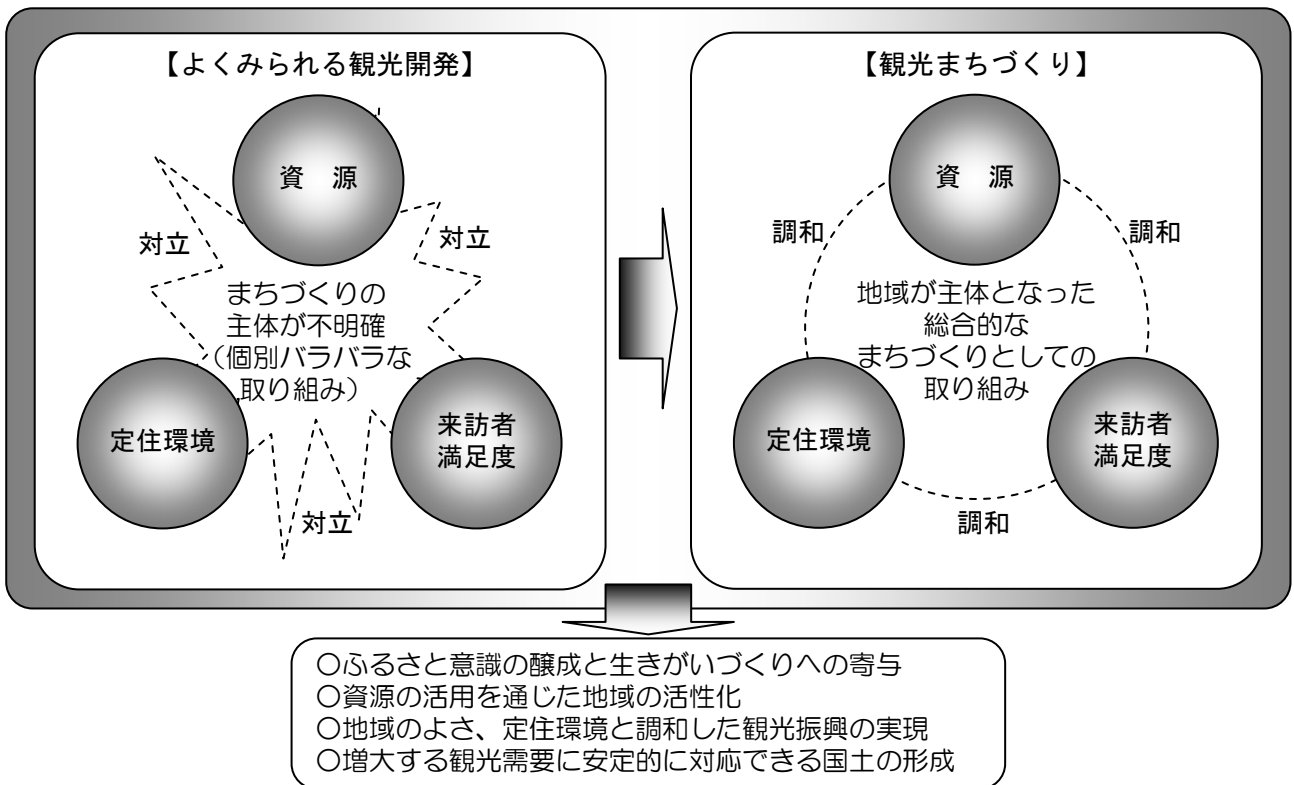


図 3-1 観光まちづくりの概念と意義

出典：観光まちづくり研究会編「観光まちづくりガイドブック」
 財団法人アジア太平洋観光交流センター、2000.3

「まちづくり観光」とは、地域と住民が主体となって三者（＝地域資源、定住環境、来訪者満足度）が調和する総合的なまちづくりとしての取り組みを意味するもので、その取り組みの結果が観光振興につながっていくという考え方です。

「まちづくり観光」の目的は、「地域の宝物」を再発見・再確認することで、他の地域とは違う自己のまちの固有価値に対して誇りを持ち、そして、その誇りこそが新たな地域文化の内発的な創造や人材育成のための原動力となっていくという点にあるといえます。

なお、「観光まちづくり」と「まちづくり観光」の考え方には本質的な違いがあるわけではありませんが、前者は、「観光を目的としてまちづくりを進める」という意味にとらえられる可能性があります。これに対して、「すばらしいまちづくり」こそが「結果として」多くの来訪者を惹きつけ、地域観光につながるということを伝える意味では「まちづくり観光」の方が地域住民のコンセンサスが得られやすい表現であると思われます。

こうした判断から、本調査では、「まちづくり観光」という表現を採用します。

3-2 地域の将来像と基本目標

関宿・周辺地域がめざす地域の将来像および基本目標を次のように定めます。

(1) 地域の将来像

～ 関宿の街道文化が育むにぎわいゾーン ～

香り高い文化・暮らしから、心の交流が生まれるまち

(2) 基本目標

① 関宿の町並みが育んだ文化と誇りを受け継ぐ

- 国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された関宿の町並みは、地域住民の誇り。
- 次の世代にしっかりと受け継ぐ責務がある。

- 東海道の宿場の景観を今に残す関宿の町並みは、他の地域にはない関独自の個性であり、地元住民にとっての大きな財産・誇りです。この文化財を将来に継承していく責務があります。
- 人口の減少傾向が顕著となり、将来の町並み保存活動を不安視する意見もみられる中で、このかけがえのない町並みを次の世代にしっかりと、そして無理なく受け継いでいくための環境をつくり、にぎわいのあるまちをつくります。

② 快適に暮らし続けることのできる環境を確保する

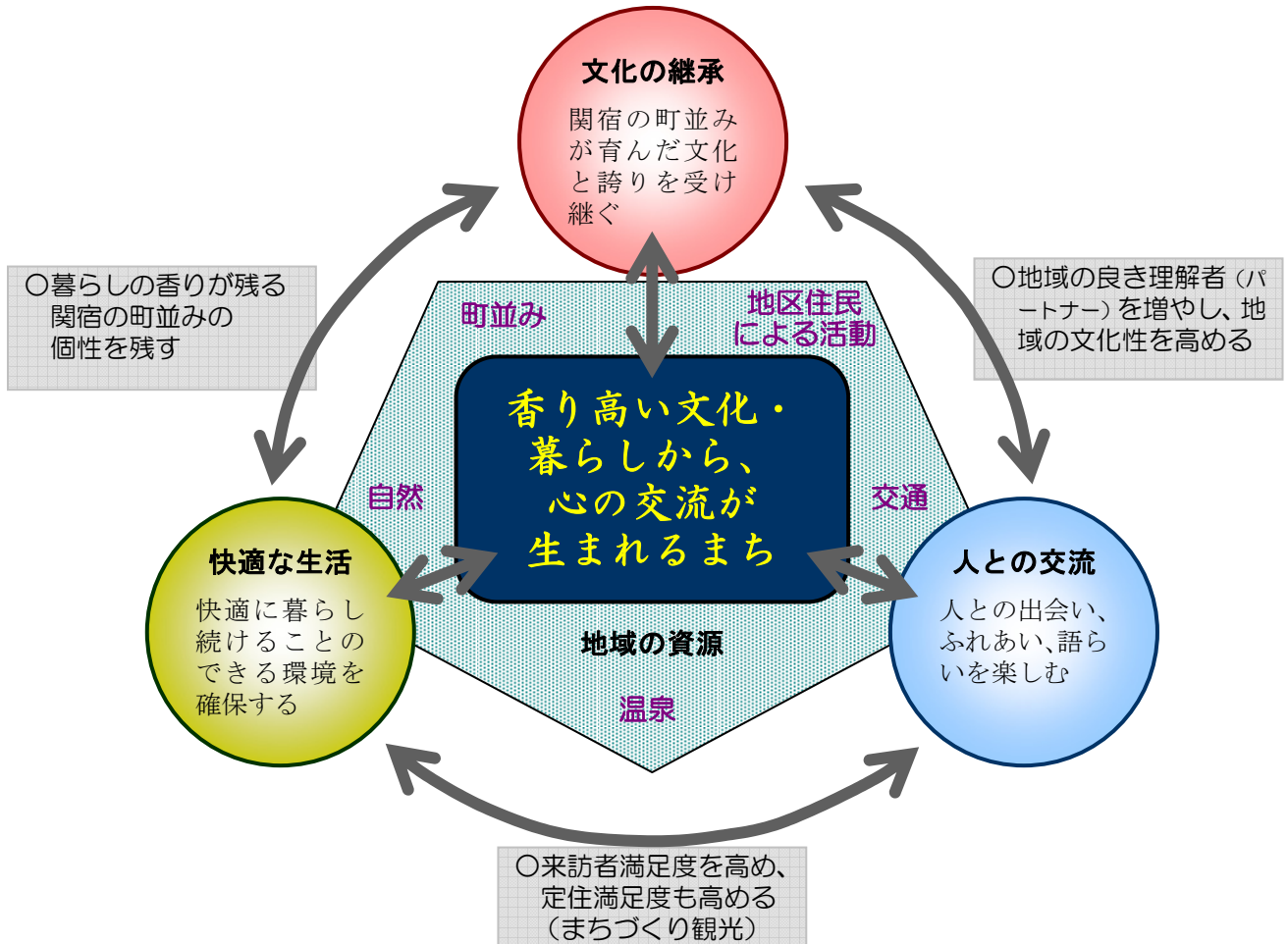
- 関宿の町並みの特徴は、そこに生活者の暮らしが息づいていること。
- 「暮らしたいまちこそ、訪れたいまち」であり、暮らしづくりを進める必要がある。

- 関宿の町並みは、生活者の暮らしが町並みに根付いていることが大きな特徴です。したがって、「生活者が住み続ける町並み保存」を基本に、地域住民の暮らしが息づく町並みづくりを推進する必要があります。
- 周辺地域を含め、「暮らしたいまちこそ、訪れたいまち」を合い言葉に、魅力的で快適に暮らし続けることのできる環境を確保して、にぎわいのあるまちをつくります。

③ 人との出会い、ふれあい、語らいを楽しむ

- 関宿の町並みは、地域住民の誇りであると同時に、国の宝、世界の宝。
- 関宿の町並みを核に多くの人が集い、多様な交流が楽しめる場とする必要がある。

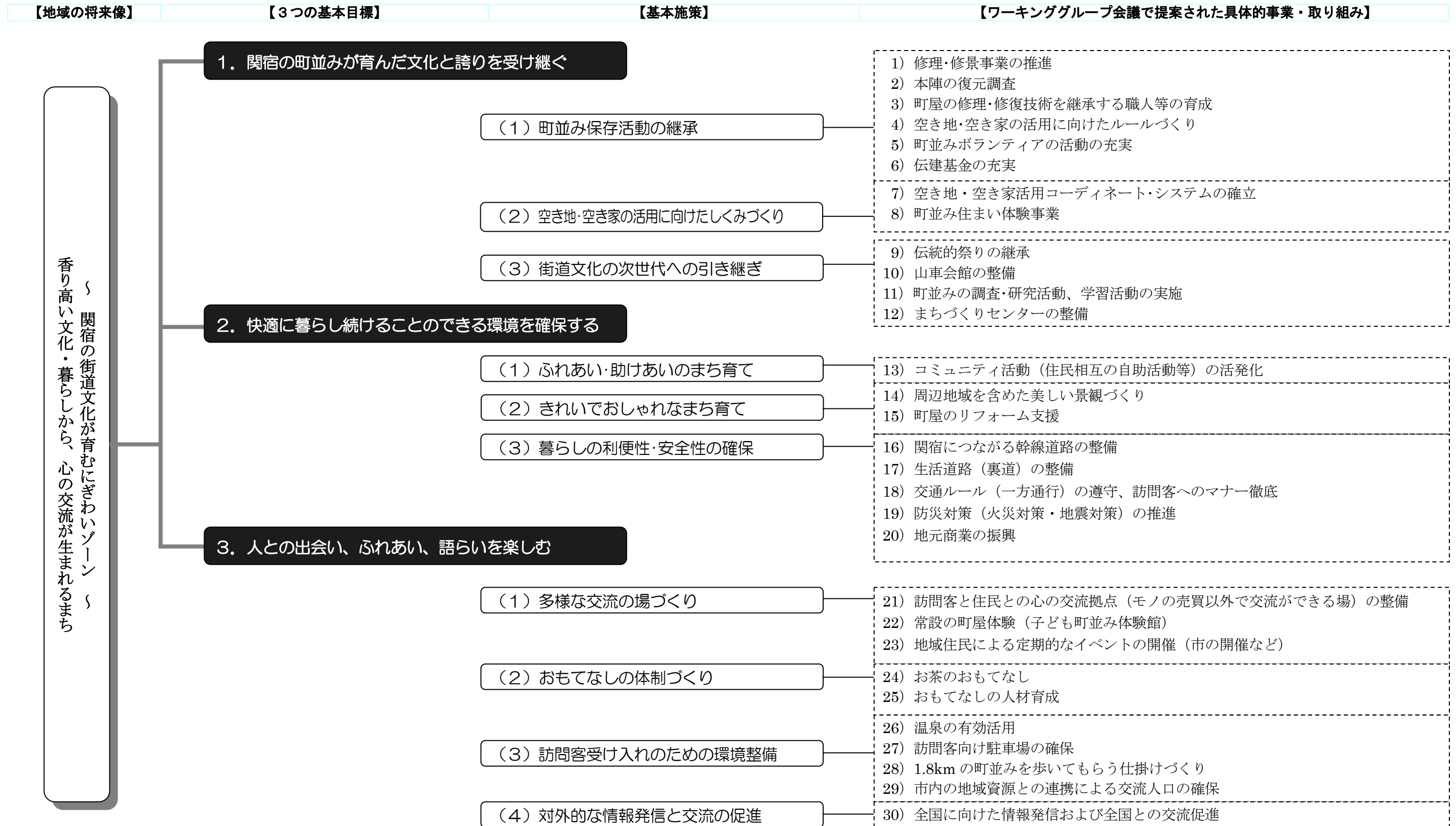
- この町並みは国の重要な文化財であり、全国さらには世界から訪れる人々の求めに応じて、その歴史や文化に関わる情報や人が集まる場を提供していく必要があります。
- 地域からの情報発信機能を高めながら、地域住民の人と人のつながりのみならず、多くの人々が関宿・周辺地域に集い、人と人との出会いとふれあい、語らいを楽しめるような、にぎわいのあるまちをつくります。



～ 関宿の街道文化が育むにぎわいゾーン ～

図3-2 関宿・周辺地域 にぎわいづくりの方向 概念図

3-3 施策の体系



第4章 関宿・周辺地域にぎわいづくりのための基本施策と

ワーキンググループ会議で提案された具体的事業・取り組み

4-1 関宿の町並みが育んだ文化と誇りを受け継ぐための施策

(基本施策)

(1) 町並み保存活動の継承

(提案された具体的事業・取り組み)

1) 修理・修景事業の推進	
背景	<p>○昭和55年度より取り組んできた修理・修景事業は累計で460件を数え、補助事業費は約6億5千万円が投じられてきました。</p> <p>○その結果、関宿の町並みは、文化財として高い評価を受けるようになりました。</p> <p>○町屋の修理・修景事業は毎年実施されていますが、事業費に限りがあるため、順番待ちの状況にあります。</p>
ねらい	<p>○まちの財産である関宿の文化的価値のさらなる向上をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○町並みの修理・修景事業に今後も継続して取り組み、関宿の町並みを史実に忠実に復元します。</p> <p>：事業の実施にあたっては、歴史的事実に基づく質の高い工事に努めます。</p> <p>○町屋の修理・修復工事に際しては、耐震・耐火といった建物の防災対策を推進します。[19.防災対策（火災対策・地震対策）の推進]と関連]</p>
[WGでの意見]	<p>◆現在の町並みを完全修復する（本物を目指す）。</p> <p>◆町並み修理、修景資金の全額補助。</p>
2) 本陣の復元調査	
背景	<p>○関宿にはかつて伊藤本陣と川北本陣の二つの本陣がありましたが、現在は、ともに本陣跡に石碑が残されているのみです。</p> <p>（※本陣＝参勤交代の大名や公家、公用の幕臣などが利用した宿泊施設）</p> <p>○これまでに玉屋や関まちなみ資料館、高札場などが復元・整備されてきましたが、関宿の町並みのシンボルとして、本陣の復元・整備への期待が高まっています。</p>
ねらい	<p>○関宿の町並みのシンボルとして、本陣の復元・整備をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○伊藤本陣と川北本陣の二つの本陣に関して、十分な調査・研究を実施します。</p> <p>○本陣の復元・整備に向けた地元住民の理解・協力を促していきます。</p> <p>○歴史的事実に忠実に、本陣の復元・整備を図っていきます。</p>
[WGでの意見]	<p>◆宿場町のことなら関宿で全てわかるような資料館（例えば本陣の復活）の整備</p>

3) 町屋の修理・修復技術を継承する職人等の育成	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○町並みの修理・修復事業を将来にわたって実施していくためには、修理・修復技術を継承する職人や専門家を育成していくことが必要です。 ○平成 18 年度より研究会を組織して、設計管理者などの学習会活動を開始したところです。
ねらい	○質の高い町並みを維持するため、修理・修復技術の確実な継承をめざします。
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○修理・修復事業に関わる職人や専門家を組織化し、基礎的な知識から専門的な技術の習得までが可能となるような研修プログラムを提供していきます。 ○職人や専門家組織による自主的な人材育成が可能となるように、関係団体の組織化および活動支援制度の充実を進めます。
[WGでの意見]	◆町並み修復技術を継承する職人の育成。

4) 空き地・空き家の活用に向けたルールづくり	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○生きた町並み保全を継承していくためには、空き地・空き家を活用していくことが必要ですが、関宿の町並みの品格を損なったり、地域住民の生活環境に著しい弊害をもたらしたりするような形で活用されることは避けなくてはなりません。 ○こうした地域にとってマイナスとなるような空き地・空き家の活用を避けるために、地域住民の合意のもとでのルールづくりを進めておくことが必要です。
ねらい	○空き地・空き家の活用に関わるトラブルの未然防止をめざします。
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○先進地の事例を学習するなどして、空き地・空き家の活用に向けた調査・研究を進めます。 ○住民同士が空き地・空き家の活用について話し合う機会を持ち、住民の理解促進、機運の醸成に向けた取り組みを展開します。 ○住民の合意のもとに、みんなが守れるルールづくり、仕組みづくりを進めます。

5) 町並みボランティアの活動の充実	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○関宿の町並み保存地区では少子高齢化が進行し、町並み保存活動の今後の継続を心配する声があります。 ○周辺地区住民の「関宿の町並みを伝建地区内外の住民で盛り上げたい」との意見に象徴されるように、周辺地区の住民も関宿の町並み保存活動に高い関心と協力的な姿勢を示しています。 ○町並み保存活動を単に伝建地区内の住民の問題として限定的にとらえるのではなく、幅広い市民の支援を得て発展的に推進していくことも求められています。 ○すでに「関宿保存会」が、町並み保存を周辺から支える応援団的な役割を担って活動していますが、こうした活動の輪を一層広げていくことが望まれます。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○町並み保全活動に協力的な市民の力の有効活用をめざします。
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民が町並み保存活動について話し合う場に、地区住民以外の市民も参加できるような機会を提供します。 ○こうした話し合いを通じて、町並み保存活動の推進にあたり「ちょっと助けてほしい」という意見と、「何かお手伝いしたい」、「経験を生かして社会貢献したい」という気持ちをつなげていく仕組みづくりを進めます。 ○このため、「関宿保存会」の会員拡大を図り、活動の拡充を進めます。 ○また、多様な活動団体・グループの組織化を促し、ボランティア活動の充実をめざします。

6) 伝建基金の充実	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○町並み保存活動を進めるにあたっての事業資金として、伝建基金が積み立てられています。 ○今後の活動を進めていくにあたっては、知恵と労力を確保していくことと同時に、活動資金を確保していくことも必要です。 ○駐車場利用者などから、「町並み保存協力金」といったような趣旨で基金(募金)を集めるようなことも考えられます。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○関宿および周辺整備が安定的に実施できるようその財源確保をめざします。 ○にぎわいづくりのための活動資金の確保をめざします。 ○市民主体の活動の活発化を促します。
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○活動資金を確保する方法としては、国・県、市の支援事業から資金確保する以外に、民間の財団や基金から助成金を得るなどの方法が考えられます。 ○伝建基金に来訪者から善意の募金を集めたり、駐車場利用者などから協力金という形で少額の募金を募ったりするなどの方法も考えられます。 ○現在の伝建基金の充実ならびに有益な活用が図られるよう、基金管理のあり方、活用方法(使途)の見直しなどを進めます。

[WGでの意見]

◆サポーターが寄附したいと思った時にすぐできるように明確にする。

(2) 空き地・空き家の活用に向けたしくみづくり

7) 空き地・空き家活用コーディネート・システムの確立	
背景	<p>○平成 12 年度調査によると、旧東海道に面した保存地区内の建物の 6.9%が空き地、9.0%が空き家となっています。</p> <p>○空き地・空き家は増加する傾向にあり、これらの有効活用が必要です。</p> <p>○空き地・空き家を活用したい人に紹介する仕組みづくりは、これまでにその必要性が提案されてきましたが、今のところ具体化には至っていません。</p>
ねらい	<p>○空き地・空き家の有効活用を目的として、活用コーディネート・システムの構築をめざします。</p> <p>○多くの空き地・空き家が発生する事態を未然に防止します。</p>
取り組み内容	<p>(1) 空き地・空き家の実態把握</p> <p>：空き地・空き家の活用のためには、その実態を常に正確に把握しておく必要があります。実態調査を実施し、その基礎情報を「空き地・空き家台帳」に整理します。</p> <p>(2) 空き地・空き家活用コーディネート・システムの構築</p> <p>：空き地・空き家活用コーディネート・システムの構築に向けては、事業の実施主体を確保することが大きな研究課題です。先進的な事例研究を重ねながら、関宿の町並みにふさわしいシステム構築を進めます。</p>
[WGでの意見]	<ul style="list-style-type: none"> ◆空き地活用コーディネート課の設置。 ◆町屋で商売を始めたい人、町屋に住みたい人への、空き家の紹介事業・コーディネート。 ◆空き家の活用（紹介）。 ◆空き家活用に向けて常に対応する場所が必要。専用の電話をおくとかしては？
8) 町並み住まい体験事業	
背景	<p>○上述の通り、空き地・空き家は増加する傾向にあり、これらの有効活用を図ることが必要となっています。</p> <p>○若い世帯の定住が課題であり、若い世代の方々にとっても魅力的な住まいをモデル的に提示していくことが必要です。</p> <p>○町屋で暮らしてみたいと考える人にとっても、最初から町屋を購入して、住まうことには大きな抵抗があると考えられます。</p>
ねらい	<p>○町屋で暮らしてみたいと考える方に、容易に借りることができ、町屋暮らしを体験できる住宅を提供します。</p> <p>○空き家への新たな居住者の確保をめざします。</p>
取り組み内容	<p>(1) モデル賃貸住宅（チャレンジ・ハウス）の提供</p> <p>：現在、空き家となっている町屋を公的主体で借り上げ（または購入し）、町屋暮らしを体験するモデル賃貸住宅（チャレンジ・ハウス）として提供します。</p> <p>：伝建地区内の古い町屋をリフォームし、伝統的な町屋の良さや現代的な生活様式を調和させたモデル住宅として、希望者には見学可能な住宅とします。</p> <p>：伝建地区内で修理・修復事業を進める際に必要となる、仮住居としても活用できる住宅として整備を進めます。</p>
[WGでの意見]	<ul style="list-style-type: none"> ◆個々の建物の中を開放し、見てもらう（特に観光シーズン中）。 ◆町屋のリフォームモデルの見学会。体験発表会。 ◆町家暮らしのチャレンジ・ハウス整備。

(3) 街道文化の次世代への引き継ぎ

9) 伝統的祭りの継承	
背景	<p>○毎年 7 月下旬の週末に開催される「関宿夏まつり」は、江戸時代の文化年間（1804~17）から続く伝統行事です。夜には絢爛豪華な 4 台の山車が町内を練り歩きます。</p> <p>○この伝統行事の保存を目的に、「関の山車保存会」が活動を続けています。</p> <p>○少子高齢化、人口減少が進む中であって、こうした伝統行事を次の世代へとしっかりと受け継いでいくことが強く求められています。</p>
ねらい	<p>○伝統的祭りを通じて、世代間の交流を促します。</p> <p>○楽しみながら関宿の歴史を学び、あわせて関宿の地域文化の継承、新たな地域文化の創造につなげていきます。</p>
取り組み内容	<p>○「関の山車保存会」の会員を中心に、地域の子どもたちはもとより、周辺地区や市内で関心を持つ人々へ、関宿の伝統行事の普及活動を充実していきます。</p> <p>○郷土学習の一環として、関小・中学校の学習課程への組み入れを働きかけます。</p> <p>○地元出身者で、現在、他地域で生活する方々も、祭りに参加しやすい雰囲気をつくり、祭りを支える人材の育成にも取り組みます。</p>
[WGでの意見]	<p>◆祭り囃子を通して子供たちと話し合い、子供たちに関の文化の良さを知らせる。</p>

10) 山車会館の整備	
背景	<p>○江戸時代の文化年間（1804~17）から続く伝統行事を平常時にも紹介することができるよう、関宿の新たな観光魅力づくりの一貫として、山車会館の整備を望む意見があります。</p>
ねらい	<p>○伝統的祭りを通じて、世代間の交流を促します。</p> <p>○関宿の交流拠点のシンボル形成をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○地域の子どもたちへの行事伝承の拠点として、また、訪問客へ関の山車を紹介する拠点として、関宿山車会館の整備を進めます。</p>

11) 町並みの調査・研究活動、学習活動の実施	
背景	<p>○関宿の町並みについては、従来から多くの研究者・研究機関により、様々な調査・研究が行われてきました。</p> <p>○市においても、文化財保存の観点から学術的な調査・研究に取り組んでいます。</p> <p>○町並みの学術的な調査・研究は、今後も引き続き継続していく必要があります。</p> <p>○町並み保存活動に意欲的な地元住民が中心となって「関宿保存会」が組織され、月1回の学習会（月例会）、かわら版の発行（1回/2ヶ月）、研修視察などが行われています。</p> <p>○地元の住民が関宿の歴史を学習する機会を増やして、正しい知識を身につけていくことが必要であるとの意見が寄せられています。</p>
ねらい	<p>○町並みの調査・研究活動の成果をしっかりと次の世代へ伝えていきます。</p> <p>○地域住民の町並みに対する愛着や誇りの醸成を図ります。</p>
取り組み内容	<p>○町並みの学術的な調査・研究の充実を図ります。</p> <p>○「関宿保存会」が中心となって実施している学習会、かわら版の発行、研修視察といった活動の充実・活発化を図ります。</p> <p>○学校教育とも連携して、子どもたちに地域の文化財を理解してもらうような活動を進めます。</p>

[WGでの意見]

- ◆調査・研究の継続（①関3町および関周辺の文化財の調査、②地蔵院の活用、③亀山は城下町、関は宿場町でアピールする。）
- ◆文化財として、もっと住民へのPRを
- ◆学校教育（総合）への町並み探検の導入（スタンプラリーも）。
- ◆市内学校の教材への取り入れ、インターンシップ。
- ◆宿場町のことなら関宿で全てわかるような資料館（例えば本陣の復活）の整備と住民の教育（大学との連携）

12) まちづくりセンターの整備	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○上述したように、今後も引き続き町並みの調査・研究活動を継続していくことが必要です。 ○また、文化財としての町並みを活用して、住民のまちづくりにつなげていくことも必要です。 ○現在、「関宿保存会」などを中心とした町並みの調査・研究活動の場としては、いっぷく亭や玉屋歴史資料館などが活用されていますが、調査・研究に関わる資料を保存・展示するような拠点施設、さらには町並みの地域情報を対外的に情報発信する拠点施設の整備が望まれています。 ○関宿スケッチコンクールなど関宿を舞台として市民による新たな文化活動が興ってきています。こうした活動の成果を蓄積していくことが必要です。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民のまちづくり活動、町並み保存活動の活性化につなげていきます。
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○空き家活用の一環として、ふさわしい町屋を買い上げ（または借り受けるなどして）、市民のまちづくり活動に根ざした施設の整備を進めます。 ○地域のまちづくり活動と連携しながら、町並みの調査・研究に関わる資料の保存・展示を進め、町並み保存に関わるまちづくりセンターの機能を担う拠点施設として内容の充実を図っていきます。 ○将来的には、全国に向けて関宿の町並みの歴史や文化を対外的に情報発信していけるような機能整備をめざします。
[WGでの意見]	<ul style="list-style-type: none"> ◆町並み研究所（資料室）の開設。 ◆宿場町のことなら関宿で全てわかるような資料館（例えば本陣の復活）の整備と住民の教育（大学との連携）

4-2 快適に暮らし続けることのできる環境を確保するための施策

(基本施策)

(1) ふれあい・助けあいのまち育て

(提案された具体的事業・取り組み)

13) コミュニティ活動（住民相互の自助活動等）の活発化	
背景	<p>○伝建地区内では、少子高齢化が進行しています。</p> <p>○関宿の町並みは、そこが地域住民の暮らしの場となっていることが特徴です。したがって、地域住民が元気に日常生活をおくることのできる状況をつくり出していくことが必要です。</p> <p>○市では、地域自治振興を目的に自治会（コミュニティ）を単位とした自治組織づくり、自治活動支援を進めています。</p> <p>○伝建地区ならびにその周辺地区に関わる自治会としては、第18支部（新所）、第19支部（中町）、第20支部（木崎町）があり、今後の自治振興に関宿の町並みを有効に活用していくことが求められています。</p>
ねらい	○町並みをうまく活用して、地域住民のまちづくり活動の活発化を促します。
取り組み内容	<p>○住民の日常生活を豊かにしていくため、町並みを舞台にしつつ、住民同士のふれあいや助けあいを目的とした様々な活動を自治会活動の一環として展開していきます。</p> <p>[活動例]</p> <p>(1) ボランティア商店の普及促進</p> <p>：自動車に乗れない高齢者が、買い物などに出かける際に、買い物目的でなく休憩目的で昔なじみの店舗に立ち寄ることのできるよう、町並みに面する店舗が福祉目的に店を開く（＝ボランティア商店）という取り組みを地域全体で展開していくというものです。</p> <p>(2) 地域住民活動の場としての活用</p> <p>：地域住民の手工芸、伝統工芸、美術工芸等のグループ（例えば、和裁の趣味を活かした小物づくりのグループなど）の創作活動の場あるいは展示の場として、町並みを活用するというものです。</p> <p>：空き家の町屋を有効活用していくことや、市の管理施設を地域住民の活動に開放していくことなどが考えられます。</p>
[WGでの意見]	<ul style="list-style-type: none"> ◆文化財を通して町民が手をつないで町民による手づくりのまちづくりをする。 ◆住民同士の自助活動の組織づくり（日常生活のための）。 ◆「訪れたいまち」、賑やかな町には人が集まる。住民が元気ですぐ集まることのできる状況を作り出すこと。 ◆市管理施設を開放して、一般利用に活用。

(2) きれいでおしゃれなまち育て

14) 周辺地域を含めた美しい景観づくり	
背景	<p>○昭和 55 年度より 20 年余にわたって取り組んできた修理・修景事業とあわせ、電柱の移設や道路のカラー舗装などが行われ、関宿は美しい町並み景観を形成してきました。</p> <p>○関宿の町並みは地域の財産であると同時に国の財産でもあります。美しい景観づくりに向けた取り組みを充実・強化していくことが望まれます。</p> <p>○一方伝建地区の周辺では、賃貸住宅が増加するなどの状況変化がみられます。このため、伝建地区における町並み景観と周辺地区の発展とが調和していけるようなしくみを構築しておくことも重要となっています。</p>
ねらい	<p>○周辺地域の発展と調和しつつ、関宿およびその周辺地区の美しい景観形成を進めます。</p> <p>○美しい景観づくりに取り組むことで、地域住民の町並みに対する愛着と誇りの醸成をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○美しい景観づくりを進めるため、住民活動を自治会活動の一環として展開していくほか、景観条例などによる規制誘導方策の導入をめざしていきます。</p> <p>(1) 環境美化活動の促進 [「13.コミュニティ活動の活発化」と関連]</p> <p>：自治会活動の一環として、軒先に花を飾る活動や地域の清掃活動などを展開するなどして、地域の環境美化を推進していきます。</p> <p>：訪問客によるゴミのポイ捨てを防止する看板等の設置などを進めます。</p> <p>(2) サイン整備</p> <p>：関宿の町並みにふさわしいサイン（案内標識）の整備を進めます。</p> <p>(3) 住民の主体性を尊重した景観形成</p> <p>：関宿の町並みにふさわしい美しい景観形成を適正に誘導していくため、周辺地区を含めて地域住民との協議を重ねます。</p> <p>：美しい景観づくりに向けたルールづくりを進めます。</p> <p>：景観形成のための法的手法（景観計画区域、景観協定、景観地区等）についての調査研究を重ね、当地域にふさわしい手法の導入を検討します。</p>

[WGでの意見]

- ◆看板レイアウトの統一。京に向っては“かな文字”、江戸に向っては“漢字”。
- ◆伝建地区およびその周辺地区を含む景観を考え、規制を含む景観形成。

15) 町屋のリフォーム支援	
背景	<p>○伝建地区に建つ町屋は、建築後かなりの年数が経過したものが多く、今日の生活様式からすると、居室の暗さや気密性の低さ、建物内部の段差など、快適とはいえない面も少なくありません。</p> <p>○伝建地区内の定住者を確保していくためには、伝統的な町屋の外観を残しながらも、古い町屋を改造して快適に住まう方法を見出していくことが求められます。</p> <p>○実際に大きな居間空間を設けたり、天井を高くしたりと、古い町屋を工夫して改造し、居住している住宅もみられます。</p> <p>○伝統的な町屋であっても快適に暮らすことのできるよう、こうした町屋のリフォームを支援していくことが求められています。</p>
ねらい	<p>○町屋のリフォームを促すことにより、「町屋は暮らしにくい」というイメージの解消をめざします。</p> <p>○古い町屋において現代風の暮らしを実現し、おしゃれな町屋暮らしのイメージを発信するとともに、若い世代の定住を促します。</p>
取り組み内容	<p>(1) リフォーム事例の見学会 :すでに町屋をリフォーム（改造）して暮らしている住民の方の協力を得ながら、リフォーム住宅の見学会や体験発表会を行います。</p> <p>(2) 町屋リフォーム・モデルの研究 :地域の建築士などとの研究会をもち、古い町屋を活かしたリフォーム・モデルの研究を行います。 :その成果を、町屋リフォーム・モデル集（カタログ集）としてとりまとめます。</p> <p>(3) リフォーム・モデル住宅の建設 [8.町並み住まい体験事業と関連] :空き家となっている古い町屋をリフォームして、町並みの中で現代風の暮らしを実現する、リフォーム・モデル住宅を建設します。</p> <p>(4) 町屋リフォームへの支援 :町屋をリフォームして生活する者に対する、助成制度を検討します。</p>
[WGでの意見]	<p>◆町屋のリフォームモデルの見学会。体験発表会。 ◆外面は昔、内は近代住居助成。ともかく外面は今の町並み保存をこれからも支援。</p>

(3) 暮らしの利便性・安全性の確保

16) 関宿につながる幹線道路の整備	
背景	<p>○関宿の町並みがある旧東海道には、国土幹線である国道1号が並行して走っています。また、東名阪自動車道、名阪国道にも近く、広域的な交通条件には極めて優れた位置にあります。</p> <p>○当地域において、通過交通と域内交通を秩序良く整理し処理できるよう、地区幹線道路を整備していくことが求められています。</p>
ねらい	○関宿・周辺地域における交通の円滑な処理をめざします。
取り組み内容	○関宿の東部、北部に計画されている地区幹線道路の整備促進を図ります。 (県道四日市関線バイパス、木崎新所線、木崎鷲山線)

[WGでの意見] ◆関宿につながる幹線道路を整備する。

17) 生活道路（裏道）の整備	
背景	<p>○関宿の町並み保存を推進するにあたっては、旧東海道に正面を向ける町屋の裏側に、居住者動線となる生活道路を整備することが早くから求められていましたが、未だ整備には至っていません。</p> <p>○関宿の町並みを見学に訪れる訪問客が徐々に増加するなかにあって、地元住民と訪問客の混雑解消を図っていく必要が高まってきています。</p> <p>○関宿の住民にとっては、駐車場の確保することも大きな課題となっています。</p>
ねらい	<p>○生活道路としての裏道の整備ならびに駐車場の確保を進め、関宿の町並みに暮らす地域住民の生活環境の向上をめざします。</p> <p>○居住者動線と来訪者動線のすみ分けをめざします。</p>
取り組み内容	<p>(1) 生活道路となる裏道の整備促進 ：町並みの見学に訪れる訪問客の動線を踏まえながら、居住者動線と訪問客動線の整理を行い、生活道路となる裏道の整備を進めます。</p> <p>(2) 駐車場の確保 ：町並みに暮らす住民のための駐車場を、各住宅またはその近接地において確保できるよう取り組みます。</p>

[WGでの意見] ◆生活道路（裏道）の早急な整備。
◆動線整理（居住動線、来訪者動線、動線ネットワーク）
◆生活道路の確保。
◆裏道整備。
◆生活道の整備（町並み家庭全てに駐車場整備）。

18) 交通ルール（一方通行）の遵守、訪問客へのマナー徹底	
背景	<p>○関宿の町並みの中を通る旧東海道は、交通安全上の理由で一部区間が一方通行となっています。</p> <p>○町並みの中には小売店舗や銀行・郵便局などの公益的施設があり、地域住民の生活の場となっています。</p> <p>○訪問客が徐々に増加する状況にあつて、交通事故・混雑、騒音被害、プライバシー保護など地元住民と訪問客の間のトラブルを未然に防止するための対策を強化することが求められています。</p>
ねらい	○地元住民と訪問客の間のトラブルを未然に防止していくことをめざします。
取り組み内容	<p>(1) 交通ルール（一方通行）の遵守</p> <p>：まずは、一方通行を地域住民が徹底して遵守するように働きかけます。</p> <p>：一方通行の表示を、訪問者にも分かりやすくするとともに、関宿案内マップなどにも表示していきます。</p> <p>(2) 訪問客へのマナーの徹底</p> <p>：訪問客が関宿を見学する際のマナー（協力事項）を簡潔にまとめたものを用意して、協力を呼びかけていきます。</p>
[WGでの意見]	◆一方通行を分かりやすく表示する。まず、住民の一方通行厳守。

19) 防災対策（火災対策・地震対策）の推進	
背景	<p>○火災対策、地震対策といった防災対策は町並みを保全していくにあたって欠かせない重要な視点です。</p> <p>○火災対策については、防火塗料を推奨するほか、地区の防災力を高めるための消火設備（消火栓等）や避難路の確保などを進めてきました。</p> <p>○個々の住宅における延焼防止対策や地区での防火対策を今後も強化していく方向で取り組んでいくことが必要です。</p> <p>○関宿の町屋は古い建物が少なくないことから、耐震力を強化することが緊急の課題となっています。</p>
ねらい	○町並みを火災や地震などの災害から守るため、防災力の向上を図ります。
取り組み内容	<p>(1) 火災対策の推進</p> <p>：防火材料の使用を進めるほか、修理・修復工事を行う際に防火壁を設けるなど、個々の建物の防火対策を高めるよう促します。</p> <p>：町全体の防災力を高める視点から、空き地の活用などを図りながら、長期的な視点で防災帯の確保を進めます。</p> <p>：初期消火活動を迅速に行うことができるように、地域消防力の強化に取り組みます。</p> <p>(2) 地震対策の推進</p> <p>：修理・修復工事を行う際に、構造補強を進めていきます。</p>

20) 地元商業の振興	
背景	<p>○現在町並みの中には 30 数軒の商店があります。地域の高齢化が進行する中にあって近隣商業の維持がより必要となっています。</p> <p>○かつては在郷集落の住民を顧客とした商業地でしたが、商業環境は大きく変化しており、今後は個店の魅力や商品の魅力で遠方からも顧客を惹きつけるような商店経営が求められています。</p> <p>○関宿の町並みを貴重な地域の財産として活用しながら、地元商業の活性化や若者が地域に定住してもらえるような取り組みを展開していくことが強く望まれています。</p>
ねらい	<p>○暮らしやすさ確保のため近隣商業を維持し、関宿の個性を活かした地元商業の振興をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○既存事業者が関宿の町並みに訪れる人々の価値観と適合するような商売を加えたり、新たな事業者を迎え入れたりするなどして、高齢者が暮らしやすく、また、若者が地域に定住してもらえるような地元商業の振興策を展開していきます。</p> <p>(1) 既存店舗への支援 : 最寄り品中心に加え、来訪者を対象とした業種を始める地元事業者、新規出店者などに対して、指導・相談業務などの支援策を講じていきます。</p> <p>(2) 実験的店舗（チャレンジ・ショップ）の導入 : 町並みという環境を活かして、新たな商売に挑戦してみたいという人にその機会を提供するため、空き家活用などによる実験的店舗（チャレンジ・ショップ）を提供します。</p> <p>(3) 町並みにふさわしくない商店の出店抑制（自主規制） [4.空き地・空き家の活用に向けたルールづくりと関連] : 関宿の町並みの品格を損なったりするような商店の出店は控えるように、関係者（＝町屋所有者）の合意のもとにがルール（自主ルール）を定めます。</p>
[WGでの意見]	<p>◆空き家を行政が借り受け民に店づくりをさせる（体験の場、憩いの場、地場産土産物店等）。</p>

4-3 人との出会い、ふれあい、語らいを楽しむための施策

(基本施策)

(1) 多様な交流の場づくり

(提案された具体的事業・取り組み)

21) 訪問客と住民との心の交流拠点（モノの売買以外で交流ができる場）の整備	
背景	<p>○関宿の町並みを訪れる訪問客は増加していますが、案内ボランティアの方々を除けば、これら訪問客と地元の住民とがふれあう機会はありません。</p> <p>○訪問客に宿場町の気風や地域文化にもふれていただくことは大切です。</p> <p>○また地元の住民にとっては、訪問客との会話が、楽しみや生きがい、自己実現の場となることも考えられます。</p>
ねらい	○地域住民と関宿を訪れる訪問客とのふれあいの機会拡大をめざします。
取り組み内容	<p>○物販や飲食などの商業行為以外で、訪問客と地域住民が心の交流ができるような場を増やしてきます。</p> <p>(1) まちかど博物館・資料館の整備</p> <p>：町屋の軒先や店先を活用して、関宿の昔の暮らしを紹介する逸品を展示していくような取り組みを進めます。</p> <p>：軒先や店先には、訪問客との会話が楽しめるような空間を用意します。</p> <p>(2) 新たな博物館・資料館の整備</p> <p>：空き家を活用するなどして、テーマ性のある資料館づくりを進めます。 (東海道 53 次資料館、「旅」の本ばかり集めた図書館、宿場町のことなら何でも分かる資料館など)</p> <p>：地元の住民が博物館・資料館の案内などを担うことで、訪問客との交流の機会づくりにつなげます。</p> <p>(3) 温泉の活用 [26. 温泉の有効活用と関連]</p> <p>：まちかどへの足湯整備など温泉を活用した交流の場づくりを行います。</p>
[WGでの意見]	<p>◆訪問客と住民とのモノの売買以外のふれあいが出来る場（東海道 53 次資料館、「旅」の本ばかり集めた図書館など）。</p> <p>◆宿場町のことなら関宿で全てわかるような資料館（例えば本陣の復活）の整備と住民の教育（大学との連携）。</p> <p>◆各戸のお宝公開（できる範囲で）。</p>

22) 常設の町屋体験（子ども町並み体験館）	
背景	<p>○関宿にある2つの資料館を利用して、町屋の暮らし体験や旅籠宿泊体験といった事業に取り組んで好評を得ています。</p> <p>○地元の小中学生にとって、関宿の町並み・町屋の暮らしを体験から学ぶよい機会となっています。</p>
ねらい	<p>○関宿の町並み・町屋の暮らしについて、体験を通じて、若い子どもたちに伝えていくことをめざします。</p>
取り組み内容	<p>○現在、地元の小中学生を対象として取り組んでいる町屋の暮らし体験や旅籠宿泊体験といった事業を、一般の小中学生も対象にして実施します。</p> <p>○実際の町屋へのホームステイ受け入れ事業などを実施します。</p>
[WGでの意見]	<p>◆子ども体験館</p> <p>◆エコフェスタの時のような、町並みの小学生ホームステイ受け入れを定期的に行う。</p>

23) 地域住民による定期的なイベントの開催（市の開催など）	
背景	<p>○関宿には、大きなイベントとして「関宿夏まつり（7月）」と「関宿街道まつり」の2つのまつりがあり、ともに多くの人でにぎわいます。</p> <p>○この2つのイベントのほかにも、写真展やスケッチ・コンクールなどのような様々なイベントが企画されています。</p> <p>○小規模であっても、地元の住民の手づくり感覚で定期的な開催できるようなイベントを定着させていくことが望まれています。</p>
ねらい	<p>○関宿の町並みや周辺地域への理解を深めていただく機会拡大をめざします。</p> <p>○地域住民と訪問客とのふれあいの機会拡大をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○地域住民の手づくりで開催できるイベントを企画し、定期的な開催していきます。</p> <p>(1) 定期市の開催 ：月1回程度の開催を目標に、地元の生鮮野菜やお茶、漬物などの農産加工品、工芸品、リサイクル品などを扱う定期市を企画し、開催します。</p> <p>(2) 関宿歴史学習会（連続講座）の開催 ：関宿を詳しく学びたいと考える方々を対象として、関宿の見所をシリーズで案内する連続講座を開催します。</p>
[WGでの意見]	<p>◆町並みで定期的イベントの実施、PR。 (例：偶数月の第1週は新所の〇〇で市がたちます、みたいな)。</p> <p>◆文化財を通して町民が手をつないで町民による手づくりのまちづくりをする。</p>

(2) おもてなしの体制づくり

24) お茶のおもてなし	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○現在、関宿では無料の休憩所“いっぷく亭”があり、訪問者の休憩所として提供されています。 ○他の宿場町で無料のお茶を提供するところがあるようですが、関宿を訪れる訪問客に一服のお茶をサービスしてはどうかとの意見があります。 ○関はお茶の産地でもあることから、お茶の産地をPRする効果も期待できます。
ねらい	○一服のお茶を提供することで、訪問への感謝の気持ちをお伝えします。
取り組み内容	○訪問客へのおもてなしを目的として、商店などでのお茶の無料サービスを行います。
[WGでの意見]	<ul style="list-style-type: none"> ◆訪問客にお茶のもてなしを（無料で）。 ◆湯茶の呑める場所が一ヶ所ぐらい欲しい。

25) おもてなしの人材育成	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民と訪問客とのふれあいを深めていくためには、訪問客と上手に、また気取らずに会話できるよう、コミュニケーション能力を高めていくことも必要であるとの意見があります。 ○また、町並みの基礎的な知識については、住民皆が説明できるよう、地元住民の学習・研修が必要であるとの意見があります。
ねらい	○地域住民と訪問客が楽しく会話を楽しめるまちをめざします。
取り組み内容	○訪問者が楽しく地元住民と会話していただけるように、おもてなし講座などの研修活動を通じて、地元住民の人材育成に取り組みます。
[WGでの意見]	<ul style="list-style-type: none"> ◆町全体でおもてなしルール講座の開設。 ◆旅行者と気軽に話し合えるよう町民を訓練する。ボランティア商店を利用する。 ◆町民皆ガイド。ガイドボランティアと共に町の人皆がガイド。そのための研修もする。 ◆市外のボランティアの受け入れ体制を整備する（特に若者）。 ◆リピーター・サポーターが常に地元の人と連絡が取れる場所の確保。

(3) 訪問客受け入れのための環境整備

26) 温泉の有効活用	
背景	<p>○2004年12月に関支所の北側で掘り当てた「関宿温泉」があります。泉質は、ナトリウム-塩化物強塩温泉で療養泉に該当すると分析されています。</p> <p>○この温泉を有効に活用することが求められています。</p> <p>○試験的に足湯として町並み周辺地または道の駅で活用する、あるいは関ロッジの浴場で活用するなど、多様な意見があります。</p>
ねらい	<p>○関宿温泉を関宿およびその周辺地域のにぎわいづくりに活かします。</p>
取り組み内容	<p>○本調査における協議において提示された住民意見などを踏まえつつ、関宿温泉の活用パターン・活用イメージを整理すると、第2章(26～27頁)のように整理できます。</p> <p>○「まちづくり観光」では、市、住民、各種団体などの多様な主体の活動が関わring合う中で、来訪者満足度を高め同時に定住満足度も高めるような取り組みが望まれます。</p> <p>○その観点からすると、訪問客との交流拠点としての活用を基本としつつ、次のような取り組みが想定できます。</p> <p>[基本的考え方]</p> <p>(1) 交流の場としての活用(足湯施設)</p> <p>：訪問客と地域住民との心の交流を促進する場となるよう、第2章(26～27頁)に示す⑤町並み内の空き地・空き家利用、⑥健康づくり関センター及び観光駐車場横旧木村邸周辺、⑦道の駅・道の駅～地蔵院付近のいずれかにおいて、まずは足湯施設への利用を基本に、活用を図るという考え方です。</p> <p>(2) 長期的な展望に基づく活用(温浴施設/足湯施設)</p> <p>：「まちづくり観光」は、各主体が学習を重ねながら、よりよいまちづくりに向けて関係者同士の協議を重ねるプロセスが重要です。そのプロセスを踏まえながら、より有益な活用方策を検討していくことが期待されます。</p> <p>：後述する協働型の推進体制を構築し、そこでの調査研究、協議を踏まえ、温泉の有効活用について検討を継続していきます。</p>

[WGでの意見]

- ◆足湯の試験的整備。
- ◆温泉施設の充実。
- ◆末広座の復活。

27) 訪問客向け駐車場の確保	
背景	<p>○現在、関宿の町並みを訪れる訪問客向けの駐車場として、健康センター西に駐車場が整備されています。バスで訪れる訪問客はこの駐車場を利用しています。</p> <p>○「道の駅関宿（国道1号沿い）」の駐車場を利用することも可能ですが、500m程度離れているため、上述の駐車場を利用することの方が一般的です。</p> <p>○訪問客が多い秋の行楽シーズンには駐車場が不足する場合があります。また現駐車場へ進入するには、地蔵院前で鍵型状に走行して旧東海道を横切る必要があり、新たな駐車場の確保が必要との意見があります。</p> <p>○現在のところ健康センター西の駐車場を利用することがほとんどであるため、町並みの中心部である中町に訪問客を集中させる要因にもなっています。</p>
ねらい	<p>○訪問客交通の円滑かつ安全な処理をめざします。</p> <p>○訪問客の中心部への集中を緩和するような駐車場配置をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○健康センター西駐車場に駐車が集中する状況を改善し、1.8kmの町並み全体を訪問しやすくなるよう、訪問客向けの駐車場の配置計画を見直し、新たな駐車場確保を進めます。</p> <p>[案]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国道1号から地蔵院に至る間（四日市関線沿い）での駐車場の確保 2) 西の追分け、東の追分け付近での駐車場の確保
[WGでの意見]	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光駐車場の整備 ◆第2の道の駅を支所近くにつくる。 ◆1.8kmの町並みが観光できるよう西と東の追分に駐車場をつくる。

28) 1.8kmの町並みを歩いてもらう仕掛けづくり	
背景	<p>○関宿は、東西方向に1.8kmと非常に長いことに大きな特徴があり、その随所に歴史的建造物、神社・仏閣、その他の歴史的資源が存在しています。</p> <p>○一方、関宿への訪問客は1時間程度の立ち寄り客が多いのが現状で、中町付近に訪問客が集中する傾向がみられます。</p> <p>○関宿の魅力を活かすために、1.8kmの町並みに散在する多くの歴史的建造物、神社・仏閣、その他の歴史的資源にふれてもらえるような仕掛けをつくっていくことが求められています。</p>
ねらい	○1.8kmの町並みのあちこちを訪問客に訪ね歩いてもらうことをめざします。
取り組み内容	<p>○町並みのあちこちを訪問客に訪ね歩いてもらえるよう、周遊ルートの整備、誘導サイン・案内板の充実、駐車場の整備などを進めます。</p> <p>(1) 関宿周遊ルートの整備</p> <p>：関宿の見所を1時間コース、2時間コースといった所要時間に応じて見て回ることでできるルートを考案します。</p> <p>：東西の追分け、関駅、道の駅などを始点とした周遊ルートを考案します。</p> <p>：木崎ルート、北町ルート、中町ルート、新所ルートなど、じっくりと関宿をみたいという訪問客向けのルートなども考案していきます。</p> <p>(2) 誘導サイン・案内板の充実</p> <p>：町並みの中に存在するあらゆる歴史的資源に訪問していただけるように、誘導サイン・案内板を充実します。</p> <p>(3) 駐車場の確保 [27. 訪問客向け駐車場の確保に掲載（再掲）]</p> <p>[案] 1) 国道1号から地蔵院に至る間（四日市関線沿い）での駐車場の確保 2) 西の追分け、東の追分け付近での駐車場の確保</p>
[WGでの意見]	<p>◆町並み周辺の散策道の整備。</p> <p>◆新所・中町・木崎にそれぞれ特徴のある整備を用意する。</p> <p>◆交流づくり。水辺・庭園、東西1.8km中、脇道で適切配置。場づくり。</p> <p>◆1.8kmの町並みが観光できるよう西と東の追分に駐車場をつくる。（再掲）</p>

29) 市内の地域資源との連携による交流人口の確保	
背景	<p>○現状では関宿への訪問客は立ち寄り型・通過型が主体ですが、周辺地域や市内に存在するその他の地域資源との連携を図ることで、亀山市としての交流人口の拡大、滞在時間の拡大を望む意見があります。</p> <p>○生活者の暮らしが根付いている関宿にあっては、単なる立ち寄り型・通過型の来訪者が急速に増加することは必ずしも歓迎されるものではありませんが、亀山市において、今のところもっとも知名度が高く、大きな集客力を持っているのは関宿です。</p> <p>○地元生活者の暮らしとの調和を保ちつつ、市全体として地域の資源を結びつけ、交流人口の拡大を図っていくことが求められています。</p>
ねらい	<p>○関宿を核として、市内の地域資源の有機的連携方策を展開することにより、亀山市の交流人口の拡大をめざします。</p>
取り組み内容	<p>○亀山宿や坂下宿との連携、産業観光との連携、また、関宿周辺地に点在する観音山石仏群、正法寺、鈴鹿関跡などとの連携を図ります。</p> <p>○交流人口の拡大に応じた、宿泊機能の確保を図ります。</p> <p>(1) 市内三宿の連携強化 : 旧東海道の遊歩道としての整備・充実、三宿周遊ルートの整備、三宿協働によるイベントの開催など、三宿の連携、PRを進めます。</p> <p>(2) 産業観光との連携 : お茶に代表される農業や最先端のハイテク産業などの地域産業と、関宿に代表される歴史文化がうまく連携した個性ある「産業観光」を推進します。</p> <p>(3) 周辺地区との連携機能の整備 : 観音山周辺の様々な地域資源と関宿をつなぎ、これらとの連携した活動を可能とするため、歩行者用の周遊ルートの整備を進めます。</p> <p>(4) 宿泊機能の確保 : 関宿およびその周辺地区での宿泊機能の確保を図ります。 (関宿の町屋を活用した宿、関ロッジのリニューアルなど)</p>

[WGでの意見]

- ◆関宿と亀山宿の連携
- ◆関スポット巡り、月替り季替りウォーキング。JR、三交などとの共催。
- ◆サンシャインパークからテクノ工業団地さらに関宿につながる観光コースの整備
- ◆観音山石佛群、国史跡正法寺への道案内、道標が必要。
- ◆周辺の史跡の整備。考える町づくり。
- ◆下宿業を考える。修学旅行地とする。ペンション。
- ◆関ロッジの民営化、道の駅の民営化→NO.1を目指す。
- ◆宿泊施設の充実を。ロッジは観光客のためには泊まることは出来ないように思う。
(シャープ関係が多い)

(4) 対外的な情報発信と交流の促進

30) 全国に向けた情報発信および全国との交流促進	
背景	<p>○関宿は東海道の宿場として唯一当時の面影を残していること、重要伝統的建造物群保存地区としてその文化財としての価値も高く評価されていることなどから、多くの書籍や雑誌で紹介されています。</p> <p>○亀山市や亀山市観光協会などのホームページからも、関宿に関する情報を得ることができます。</p> <p>○今後、関宿を舞台として人との楽しい出会い、語らいをさらに深めていくためには、関宿の本質的な良さを対外的に情報発信していくことが必要です。</p> <p>○同時に、他都市の町並み保存会、祭り・山車の保存会などの交流を深め、関宿に関わる者が自分たちの知見を深めていくことも大切なことです。</p> <p>○そして、関宿の町並みを将来にわたって永く保全していくため、関宿の良さを本当に理解してくれる人々をひとりでも増やしていく努力が求められます。</p>
ねらい	<p>○関宿への深い理解をもって町並み保存活動に賛同していただける方々を増やし、活動の輪、人の輪を広げていくことをめざします。</p>
取り組み内容	<p>○行政、観光協会、商工会議所および関宿保存会をはじめとする住民団体すべてが、情報発信主体となって、関宿および周辺地域についての情報を全国に向けて発信していきます。</p> <p>(1) マスコミ等を活用した情報発信 : マスコミによる情報発信は非常に大きな効果を持っています。話題性のある活動を積極的に展開すると同時に、新聞やテレビ・ラジオなどのマスコミを効果的に活用した情報発信を進めます。</p> <p>(2) ホームページ、かわら版を活用した情報発信の充実 : それぞれの機関、団体が開設する独自のホームページについては、その内容の充実を進めます。 : 関宿保存会が発行しているかわら版など、様々な機関、団体、個人が独自の媒体を使って行っている情報発信についても、継続的に取り組んでいただけるように支援していきます。</p> <p>(3) ドラマ、映画などロケ地の誘致 : 関宿の景観を活かし、ドラマや映画のロケ地として活用してもらえよう、誘致活動なども展開していきます。</p> <p>○全国で活躍している町並み保存活動組織、祭りの保存会や山車保存会等との交流を深めるほか、先進的な取り組みを行うような類似都市・地域への訪問・相互交流を深めていきます。</p>
[WGでの意見]	<p>◆ドラマ、映画などロケ地の誘致（含、旧坂下小学校、加太地区）</p> <p>◆関宿を映画のロケ地にする。プロモーションビデオの作成。</p> <p>◆関の山車を通じて全国の山車保存会と連携を持ち、全国に発信する。</p> <p>◆来てもらうだけでなく、こちらからも出かけて行って交流を深める。</p>

第5章 関宿・周辺地域にぎわいづくりの推進に向けて

5 - 1 協働型の推進体制の構築

地域の将来像『香り高い文化・暮らしから、心の交流が生まれるまち』を実現するにあたっては、すでに第3章で整理したように、「まちづくり観光」の考え方を地域に定着させて、具体的な事業・活動を推進していくことを基本とします。

そのため、第4章に整理した基本施策を具体的に取り組んでいく際には、市はもちろんのこと地域住民や関係組織、活動団体、ボランティアなどのまちづくりに取り組む自発性や主体性が非常に重要となります。

したがって、本方針は、『行政の行動指針』であると同時に、『住民による住民のための行動指針』でもあり、さらには市と住民の協働を基本とした『パートナーシップ型の行動指針』という性格もっています。この点をよく理解しておくことが必要です。

本方針（『関宿・周辺地域にぎわいづくり基本方針』）に整理した基本施策の実現に向けて、市はもちろんのこと地域住民や関係組織、活動団体、ボランティアなどの自発的かつ主体的な活動についての情報を共有し、そこで発生する問題点や課題を検討し、あわせて新たな活動推進について協議する場が必要であり、行政・市民協働型の新たな推進体制の構築をめざします。

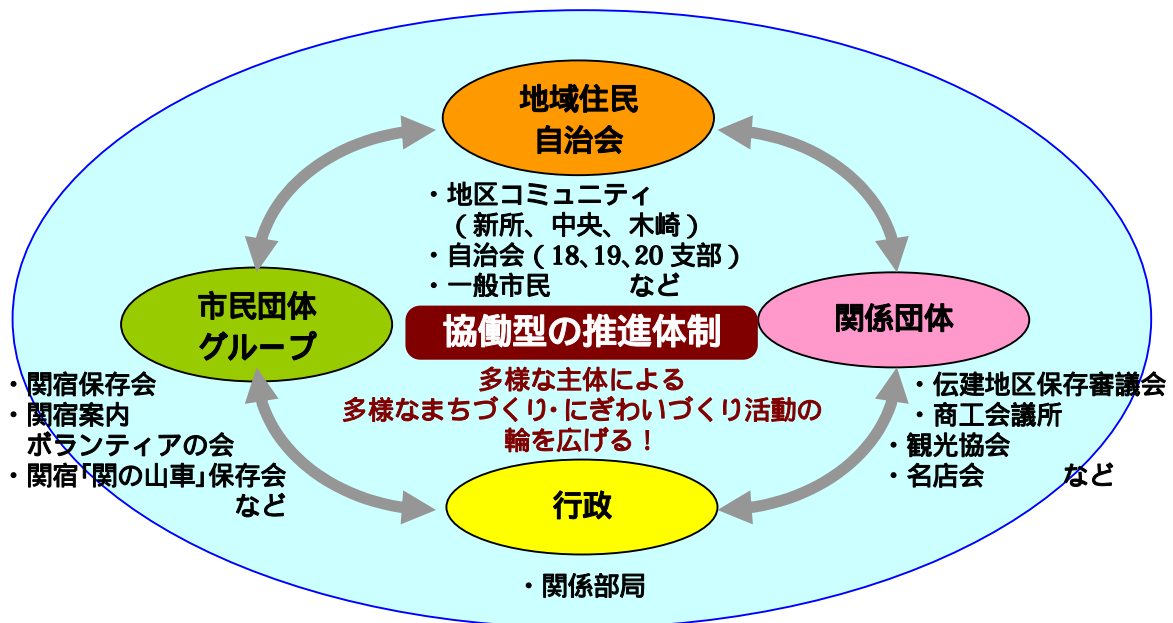


図5 - 1 新たな推進体制 「(仮称)関宿・周辺地域にぎわいづくり推進連絡会議」

地域の自発性・主体性を尊重する意味から、事務局を民間の機関・団体に設置することをめざす。機動的な対応を重視して、連絡会議内部に(仮称)幹事会を設け、協議事項の原案検討、事前協議などの役割を担う。

[協働型の推進体制を構築するために]

上述した推進体制「(仮称)関宿・周辺地域にぎわいづくり推進連絡会議」の設置については、第4回ワーキンググループの会合において、複数のメンバーから、その必要性に賛同する積極的な意見が寄せられました。

例示すると、

提案にあるような組織をつくり、関係者が集まって協議することは必要である。

地域主導の活動にしていかななくてはならない。

総合的な内容を扱うので、各主体から専任の人物を専任し、横の連携を図ることが大切。

連絡調整の組織から活動実施主体へと発展させていくように取り組むべきである。

行政側の市民活動に関わる部局も交えて、横のつながりを強化しつつ体制づくりにとりくむ必要がある。

本方針の策定にあたって繰り返して行ってきた協議・議論の蓄積を次につなげていくためにも、幅広い活動主体の関係者を交えて、新たな推進体制づくりに向けた協議の場をつくり、協働型の推進体制の構築に早急に取り組む必要があります。

行政サイドにあっては、体制づくりに向けた協議の場を用意する役割が期待されます。また、地元市民にあっては、こうした新たな体制づくりに向けた地元の気運の醸成、協議への主体的な参加が期待されます。

5 - 2 活動展開方策と各主体の役割

第4章で整理した基本施策は他分野にわたる取り組みであり、それぞれが様々なかたちで重層的に関わりを持つ取り組みとなっています。

「まちづくり観光」の考え方は、市、地域住民や関係組織、活動団体、ボランティアなどの多様な主体の活動が相乗的かつ効果的に関わりあって、地域資源、定住環境、来訪者満足度が調和する総合的なまちづくりを展開していくところに特徴があり、こうした有機的な連携を重視しながら活動を展開していくことが必要です。上述した「協働型の推進体制」はその中核としての機能を担うことが求められます。

ここでは、こうした連携を重視しつつ、基本施策として整理した取り組みの今後の展開方策を示すため、「活動展開のシナリオ」としてその考え方を整理することとします。

なお、ここでは、今後の展開方策を示す具体の活動として、次の3つを取り上げ、検討を加えることとします。

- (1) 空き地・空き家活用に向けた活動展開方策
- (2) 周辺地域を含めた景観形成に向けた活動展開方策
- (3) 訪問客との心の交流促進に向けた活動展開方策

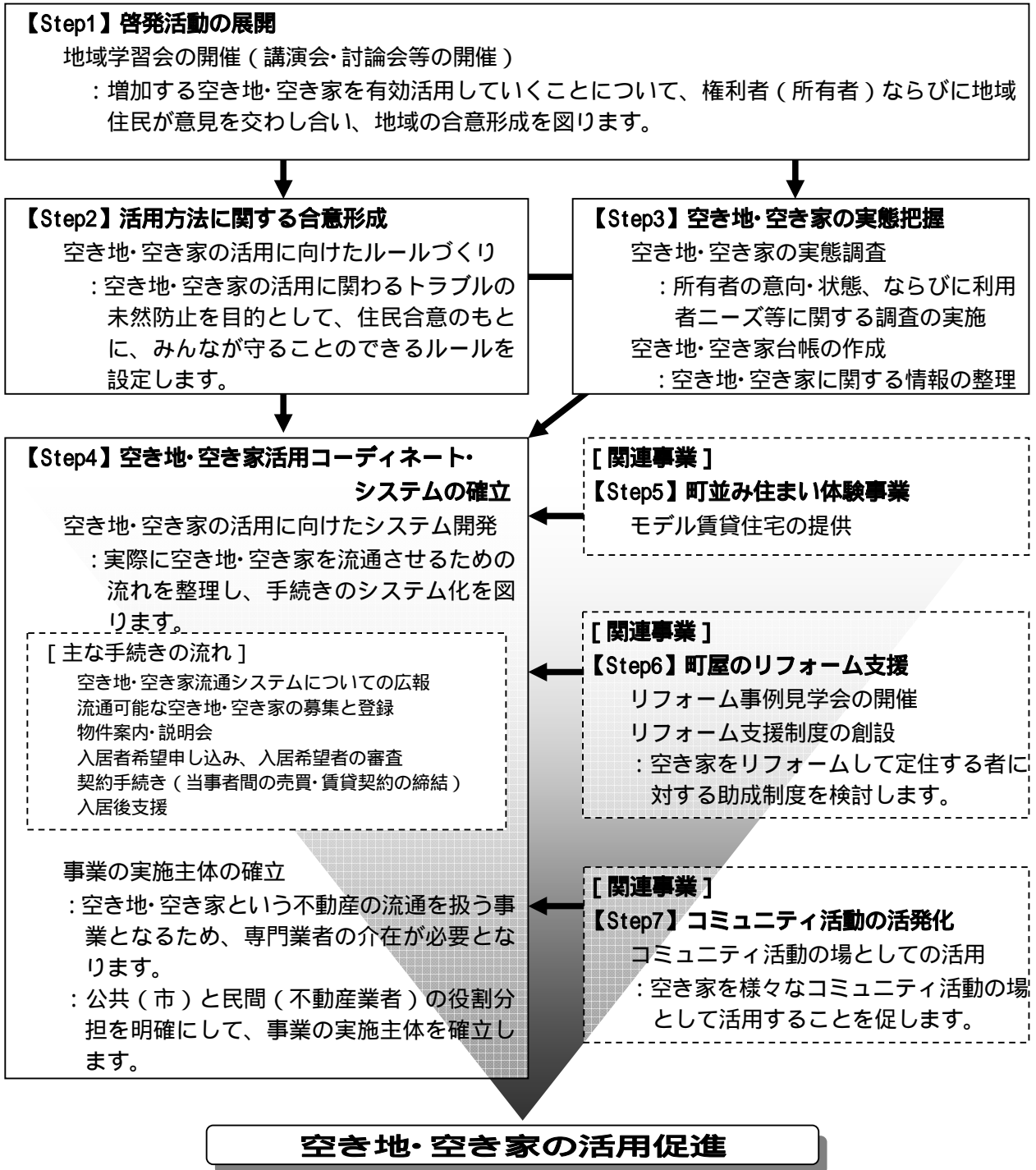
あわせて、様々な主体に期待される基本的な役割を整理しています。

(1) 空き地・空き家活用に向けた活動展開方策

[活動の趣旨]

旧東海道に面した保存地区内において、空き地・空き家が増加する傾向にあります。空き地・空き家の増加は、人口の減少、地域活力の低下が懸念されるとともに、町並み保全活動の停滞、防災・治安の悪化といった問題を助長する要因となります。このため、空き地・空き家の有効活用は当地域にとっての重要かつ緊急の課題であり、空き地・空き家の円滑な流通を促進する必要があります。

[活動展開のシナリオ]



[各主体に期待される役割]

主 体	期待される役割
地域住民・自治会 地区コミュニティ (新所、中央、木崎) 自治会 (18、19、20 支部) 一般市民 ほか	啓発活動 (地域学習会等) への参加 空き地・空き家の有効活用についての理解と協力 空き地・空き家の活用に関する協議を通じた合意形成 空き地・空き家の実態調査への協力 町屋のリフォーム事例見学会への協力 (町屋のリフォームの実践と見学会での場の提供) コミュニティ活動の実践 (コミュニティ活動の場として町屋・店舗等の有効活用) 空き地・空き家の所有者への協力要請
市民団体・グループ 関宿保存会 関宿案内ボランティアの会 関宿「関の山車」保存会 ほか	啓発活動 (地域学習会等) への協力 (参加要請) 空き地・空き家の実態調査への協力 様々なコミュニティ活動への協力 市民活動の実践 (活動の場として町屋・店舗等の有効活用) 空き地・空き家の有効活用に対する助言、調査研究
関係団体 伝建地区保存審議会 商工会議所 観光協会 名店会 ほか	啓発活動 (地域学習会等) への協力 (参加要請) 空き地・空き家の有効活用についての理解と協力 (町屋・店舗等の活用に向けたルールづくりへの参画) 空き地・空き家の実態調査への協力 空き地・空き家の活用に向けたシステム開発への協力 入居者募集時における情報発信・PR への協力
行政 (龜山市) まちなみ・文化財室 市民サービス室 企画経営室 まちづくり推進室 産業・観光推進室 ほか	空き地・空き家の有効活用に関する啓発事業の実施 住民の合意形成への支援 空き地・空き家の実態調査、台帳の作成 空き地・空き家活用コーディネート・システムの開発、PR (調査研究、事業の実施主体の確立、情報発信) 町並み住まい体験事業 (モデル賃貸住宅) の実践 リフォーム支援制度の創設 (調査研究と制度化)

(2) 周辺地域を含めた景観形成に向けた活動展開方策

[活動の趣旨]

閑宿は当地域にとってかけがえのない財産であるばかりでなく、わが国の重要な文化資産です。これまでの20余年にわたる町並み保存活動により、美しい町並みが保全され、対外的にも高い評価を得るようになってきました。このかけがえのない財産をさらに美しい姿で次の世代に引き継ぐことが、私たちの責務と言えます。

伝建地区の周辺に賃貸住宅が増加する傾向が見られます。地域の誇りとしての伝建地区の町並み景観と周辺地区の景観との調和が緊急の課題として浮かび上がっています。

[活動展開のシナリオ]

【Step1】 地元協議と研究活動の継続

地域学習会・地元協議の開催

：伝建地区ならびにその周辺地域を含めた景観形成の必要性について、地域住民および権利者（所有者）等が意見を交わし合い、学習活動および協議を重ねます。

景観形成に向けた調査研究

：景観形成の基本方針・目標の設定

：当地域にふさわしい景観形成のあり方・手法を研究します。

【Step2】 景観形成手法の導入

景観に関するルールづくり

：地域住民、行政などの協議により、景観に関するルールづくりを行います。

：あわせて、住民合意のもとで、景観形成を行う区域を設定します。

景観形成のための法的手法の導入

[景観計画区域] 届け出・勧告による緩やかな規制誘導

[景観協定] 住民合意によるきめ細かな景観に関するルール

[景観地区] 都市計画の手法を活用して、より積極的に良好な景観形成を誘導

景観法の施行により、景観行政に係る総合的な施策の推進が可能となっています。

[関連事業]

【Step3】 修理・修景事業の推進

質の高い修理・修景事業の継続実施
耐震性の向上

[関連事業]

【Step5】 生活道路の整備

裏通りの景観保全

[関連事業]

【Step4】 コミュニティ活動の活発化

環境美化活動の促進

：地域コミュニティ活動の一環として、花いっぱい運動や清掃活動などの環境美化活動を促進します。

サイン整備

：景観と調和したサイン（看板）整備を推進します。

美しい景観形成の促進

[各主体に期待される役割]

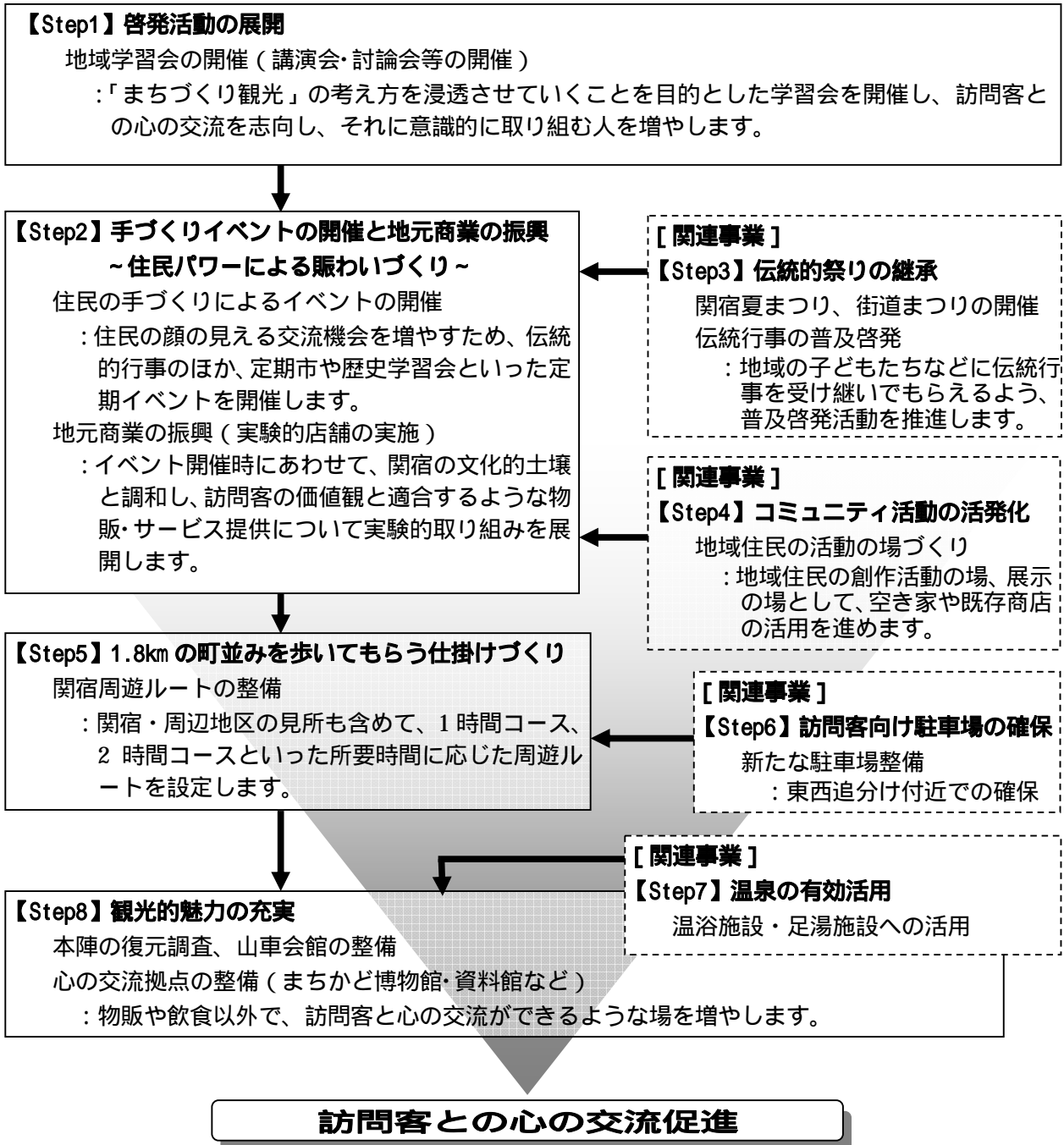
主 体	期待される役割
地域住民・自治会 地区コミュニティ （新所、中央、木崎） 自治会（18、19、20支部） 一般市民 ほか	啓発活動（地域学習会等）への参加 景観形成についての理解と協力 景観に関するルールづくり、法的手法導入についての住民協議 および合意形成 修理・修景事業の実施（景観に配慮した住宅整備） コミュニティ活動の実践（環境美化活動、サイン整備等）
市民団体・グループ 関宿保存会 関宿案内ボランティアの会 関宿「関の山車」保存会 ほか	啓発活動（地域学習会等）への協力（参加要請） 景観形成についての理解と協力 景観に関するルールづくり、法的手法導入についての助言 住民協議および合意形成への参画 様々なコミュニティ活動への協力 修理・修景事業への助言、協力
関係団体 伝建地区保存審議会 商工会議所 観光協会 名店会 ほか	啓発活動（地域学習会等）への協力（参加要請） 景観形成についての理解と協力 景観に関するルールづくり、法的手法導入についての助言 住民協議および合意形成への参画 様々なコミュニティ活動への協力（サイン整備等） 修理・修景事業への助言、協力
行政（亀山市） まちなみ・文化財室 市民サービス室 企画経営室 まちづくり推進室 産業・観光推進室 ほか	景観形成に関する啓発事業の実施 景観形成のあり方・手法についての調査研究 住民の合意形成への支援 景観に関するルールづくり、法的手法導入に関する住民協議お よび合意形成への支援 修理・修景事業への支援（補助制度の充実） 様々なコミュニティ活動への支援（活動支援補助等）

(3) 訪問客との心の交流促進に向けた活動展開方策

[活動の趣旨]

「まちづくり観光」の考え方は、地域が主体となって地域資源、定住環境、来訪者満足度が調和する総合的なまちづくりを展開し、その結果が観光振興につながっていくという考え方です。関宿の特徴はそこが地域住民の暮らしの場となっていることであり、産業としての観光振興よりも訪問客との心の交流に重点をおいたにぎわいづくりをめざしていくことが望まれます。地域の将来像『香り高い文化・暮らしから、心の交流が生まれるまち』の実現をめざし、人と人との出会い、ふれあい、語らいを楽しめるような仕掛けづくりに取り組みます。

[活動展開のシナリオ]



[各主体に期待される役割]

主 体	期待される役割
地域住民・自治会 地区コミュニティ （新所、中央、木崎） 自治会（18、19、20 支部） 一般市民 ほか	啓発活動（地域学習会等）への参加 住民の手づくりによる多彩なイベントの開催 伝統的な祭りの開催への理解と協力 伝統行事の普及啓発活動への主体的な参画 （実施に際しての事業企画、助言、指導） コミュニティ活動の実践 訪問客とのおしゃべりの交流の実践 （簡易な関宿案内の実践、挨拶・声掛けの奨励など） 民営の交流拠点づくり ：1.8km の町並みに点在させるかたちで整備
市民団体・グループ 関宿保存会 関宿案内ボランティアの会 関宿「関の山車」保存会 ほか	啓発活動（地域学習会等）への協力（参加要請） 住民の手づくりによる多彩なイベント開催への協力 伝統的な祭りへの主体的な参画 伝統行事の普及啓発活動への主体的な参画 （実施に際しての事業企画、助言、指導） 各団体・グループによる主体的な活動の実施 （歴史学習会、関宿散策などの企画事業の開催） 関宿周遊ルート整備への主体的な参画 案内方法の充実 おもてなしのための人材の育成等
関係団体 伝建地区保存審議会 商工会議所 観光協会 名店会 ほか	啓発活動（地域学習会等）への協力（参加要請） 商店の共同による多彩なイベントの開催 伝統的な祭り開催への協力、支援 伝統行事の普及啓発活動への協力、支援 各団体・グループの活動の活発化 関宿周遊ルートの PR 訪問客とのおしゃべりの交流の実践 （店舗での関宿案内の実践、挨拶・声掛けの奨励など）
行政（亀山市） まちなみ・文化財室 市民サービス室 企画経営室 まちづくり推進室 産業・観光推進室 ほか	啓発活動の実施 伝統的な祭り開催への協力、支援 伝統行事の普及啓発活動への協力、支援 住民、各種団体等が実施する事業への支援 訪問客向け駐車場の確保（駐車場整備（東西追分け付近等）） 温浴施設・足湯施設の整備（調査研究、施設整備） 交流拠点となる施設整備（本陣の復元、山車会館の整備等） ：1.8km の町並みに点在させるかたちで整備

5 - 3 関宿温泉の活用について

関宿温泉の活用についての地域住民の意向については、第2章(26~27頁参照)に整理したとおりです。また、同温泉の活用方針については、第4章(55頁参照)のように整理できます。

本調査における協議の結果としては、「まちづくり観光」を展開していくプロセスの中で、温泉の具体的な有効活用方を導き出すことを方向付けています。

しかしながら、一方では、地元などから同温泉の早急な活用を望む意見があるのも事実です。

関宿温泉の活用について、本調査を通じて整理できる点は、大きくは次の2点です。第一には、第4章(55頁参照)に記したように、交流の場すなわち訪問客と地域住民との心の交流を促進する場となるような温泉の活用方法が期待されているという点です。単に、温泉施設を整備して観光客を増やすことだけを求めているわけではありません。

第二に、第3章3-1.にぎわいづくりの基本姿勢ならびに3-2.地域の将来像と基本目標のところ整理したように、関宿の特徴は、そこに生活者の暮らしが息づいていることにあり、「暮らしたいまちこそ、訪れたいまち」の考え方のもと、快適に暮らし続けることのできる環境を確保することが必要です。この点からすると、関宿温泉の活用についても、地域住民のくつろぎの場あるいはふれあいの場といったような活用についても留意して検討していく必要があるという点です。

本調査では、関宿温泉の具体的な活用方を提示するまでは至りませんでした。上述した点を踏まえて、今後は、より具体的な活用計画案を協議の材料として提示しながら、地元に交えた協議を進めていく必要があります。

まずは、第4章に記したように、足湯施設への利用を基本として、1)町並み内の空き地・空き家利用、2)健康づくり関センター及び観光駐車場横旧木村邸周辺、3)道の駅・道の駅から地藏院付近のいずれかを候補地とした、具体的な温泉活用計画案を用意し、これを地元に提示しながら、より具体的な協議に取りかかることが必要です。

5-1.にも整理したように、今後の関宿・周辺地区のあり方について関係者が集まり協議する場が求められていることから、こうした協議の場を早急に用意して、そこでの具体的な温泉活用計画に対する意見調整を図ることが必要となっています。

関宿・周辺地域にぎわいづくり基本方針

平成19年3月発行

●発行 亀山市

●編集 亀山市産業建設部産業・観光振興室

〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番地

TEL 0595-84-5087

FAX 0595-82-9669

E-mail sangyou@city.kameyama.mie.jp